

コロナ下の女性への影響について

令和3年10月

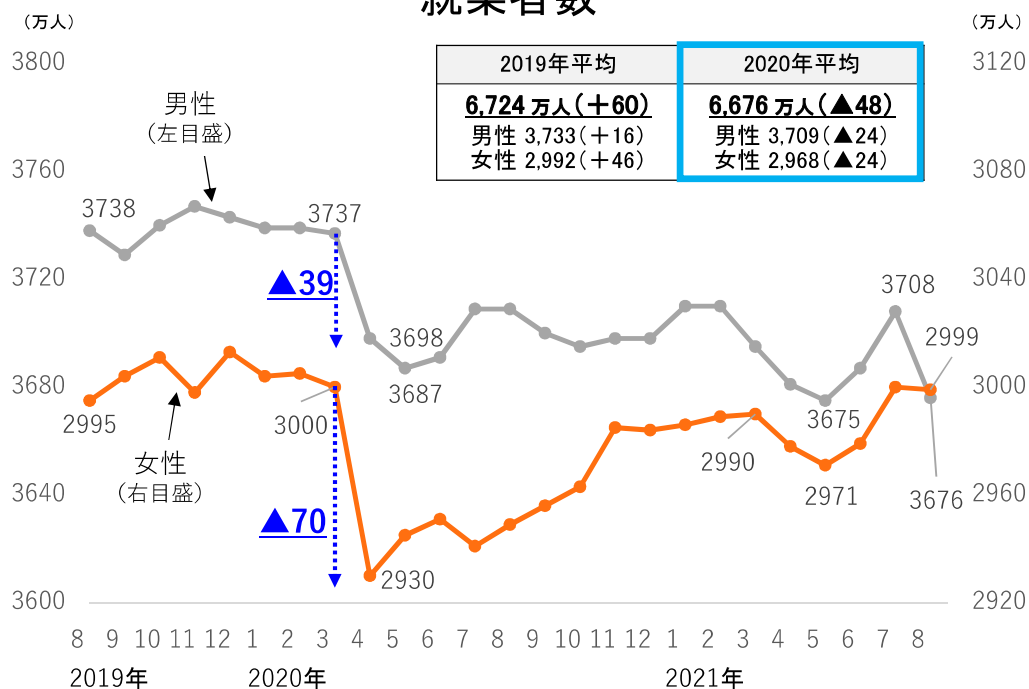
内閣府男女共同参画局

1. 就業面等

就業者数・雇用者数の推移

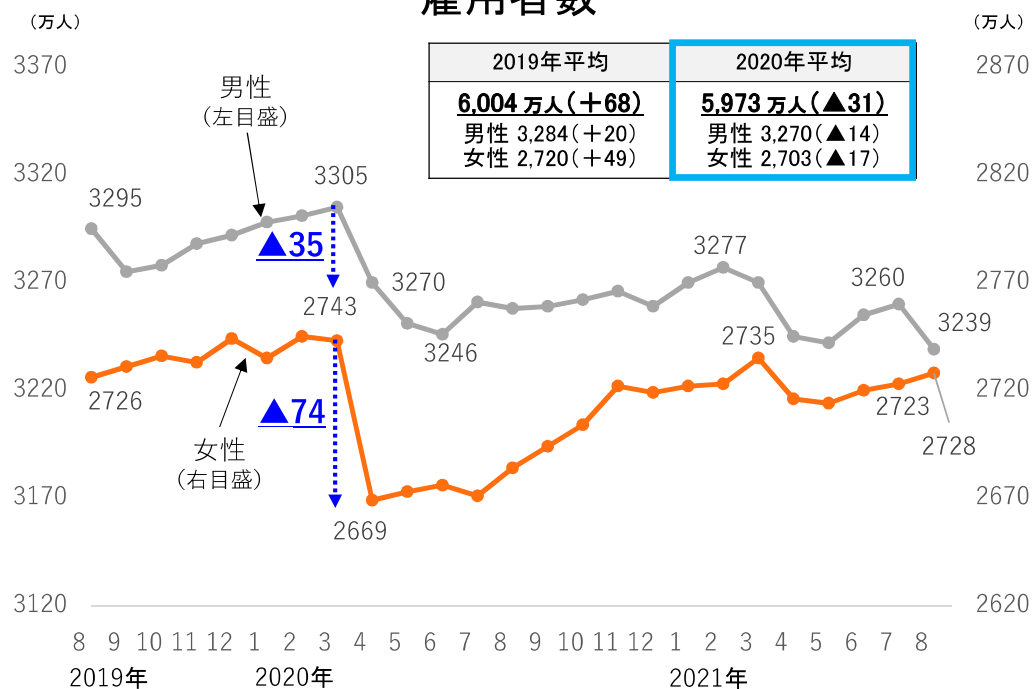
- ✓ 就業者数は、男女とも2020年4月に大幅に減少。特に女性の減少幅が大きい。（男性：39万人減、女性：70万人減）
2021年5月以降、男女とも増加していたが、2021年8月は男性が大幅に減少、女性は横ばい。
- ✓ 雇用者数は、男女とも2020年4月に大幅に減少。特に女性の減少幅が大きい。（男性：35万人減、女性：74万人減）
2021年5月以降、男女とも増加していたが、2021年8月は男性が大幅に減少、女性は増加。

就業者数



(総務省「労働力調査」より作成。季節調整値。)

雇用者数



(総務省「労働力調査」より作成。季節調整値。)

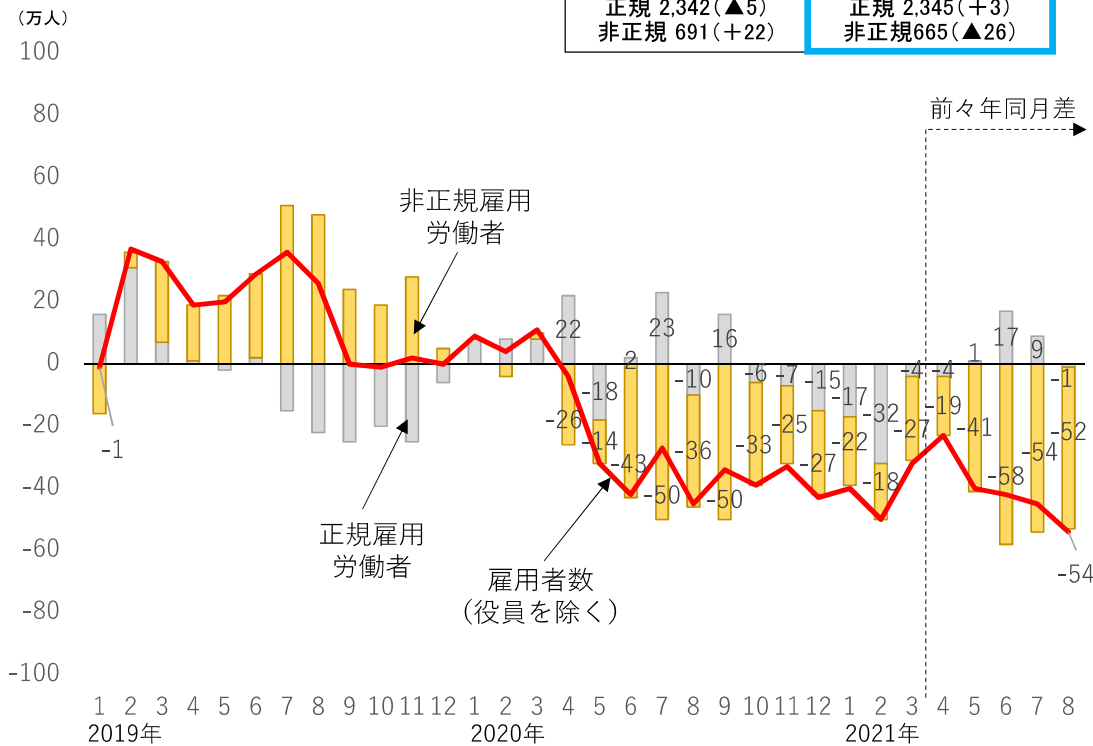
1. 就業面等

雇用者数（役員を除く）の推移

- ✓ 女性の非正規雇用労働者数は、2020年3月以降、前年同月差で13か月連続で減少。2021年4月以降は前年同月差では増加しているものの、前々年同月差では、減少で推移。
- ✓ 女性の正規雇用労働者数は、前年同月差、前々年同月差で増加が続いている。

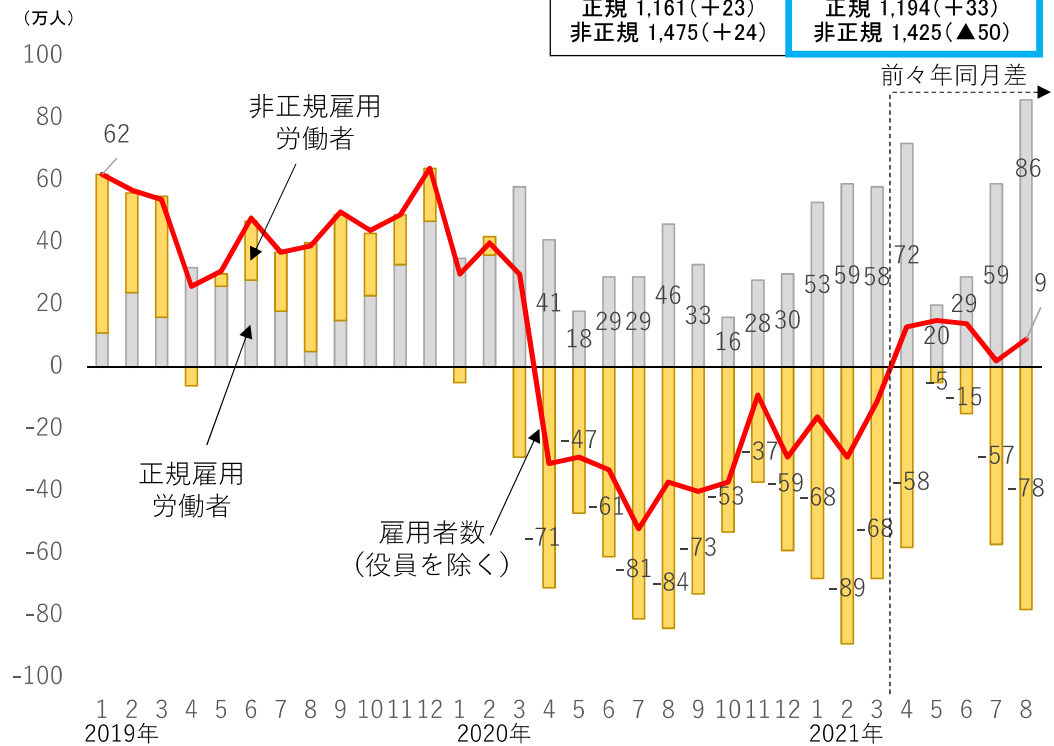
雇用形態別雇用者数の前年、前々年同月差（男性）

2019年平均	2020年平均
3,033万人(+17)	3,010万人(▲23)
正規 2,342(▲5)	正規 2,345(+3)
非正規 691(+22)	非正規665(▲26)



雇用形態別雇用者数の前年、前々年同月差（女性）

2019年平均	2020年平均
2,636万人(+47)	2,620万人(▲16)
正規 1,161(+23)	正規 1,194(+33)
非正規 1,475(+24)	非正規 1,425(▲50)

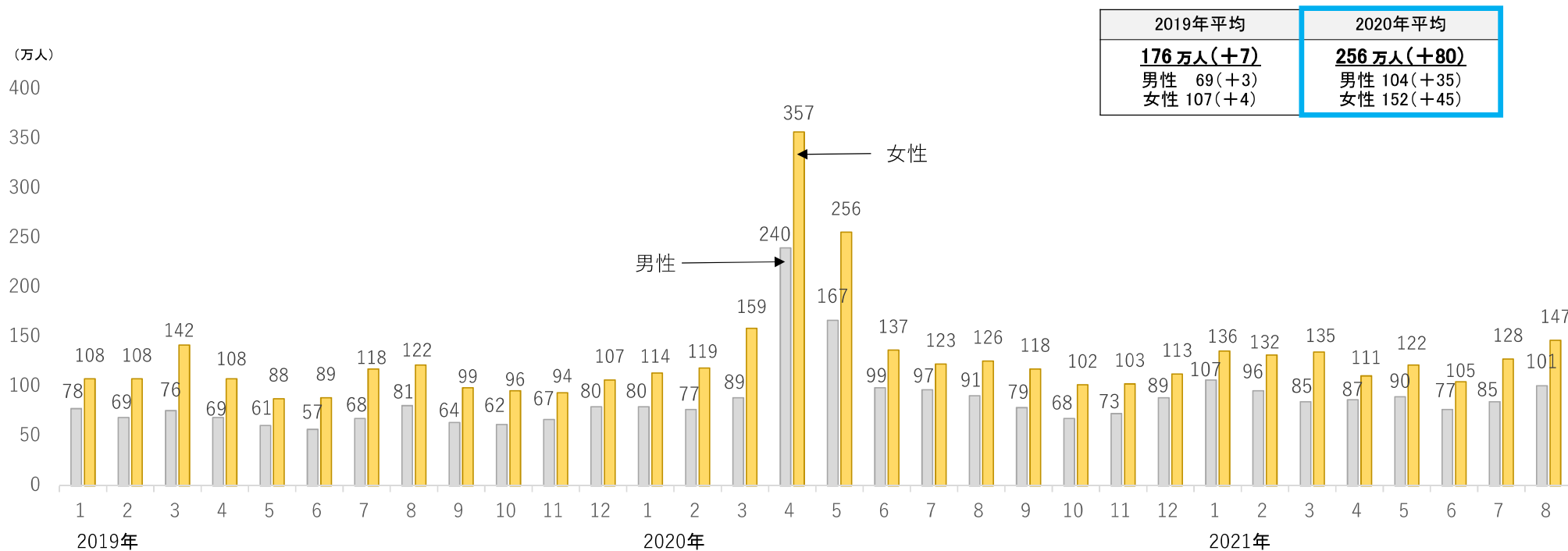


（総務省「労働力調査」より作成。原数値。）

休業者数の推移

- ✓ 休業者数は、男女とも2020年4月及び5月に大幅に増加した。2021年8月の女性の休業者数は、2020年6月以降で最多となった。

休業者数



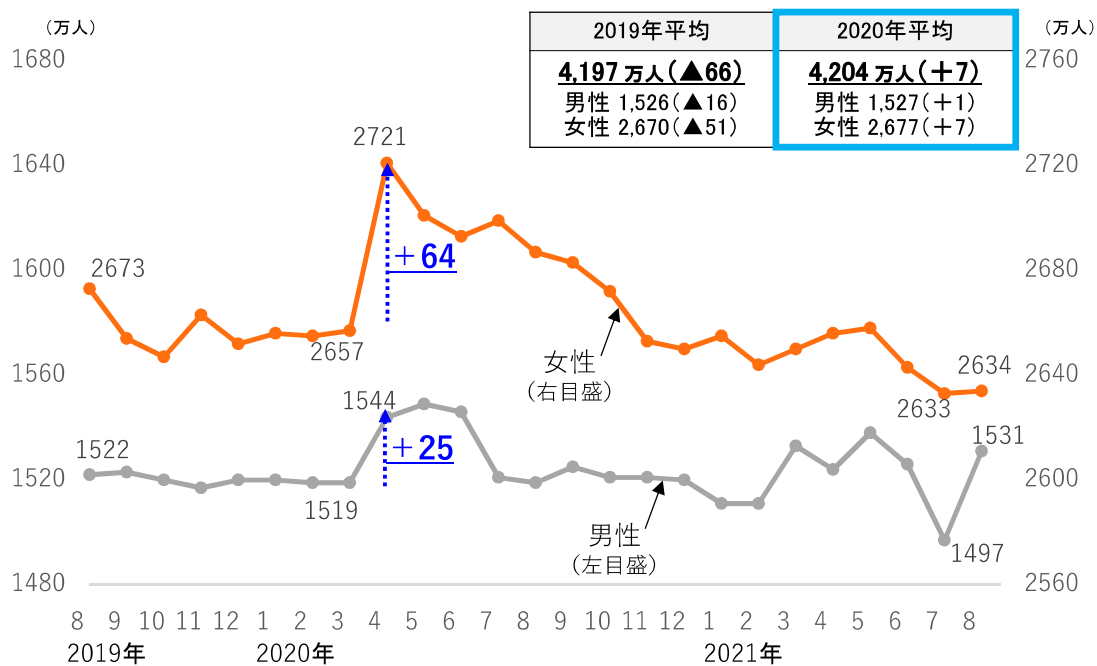
(総務省「労働力調査」より作成。原数値。)

1. 就業面等

非労働力人口・完全失業者数の推移

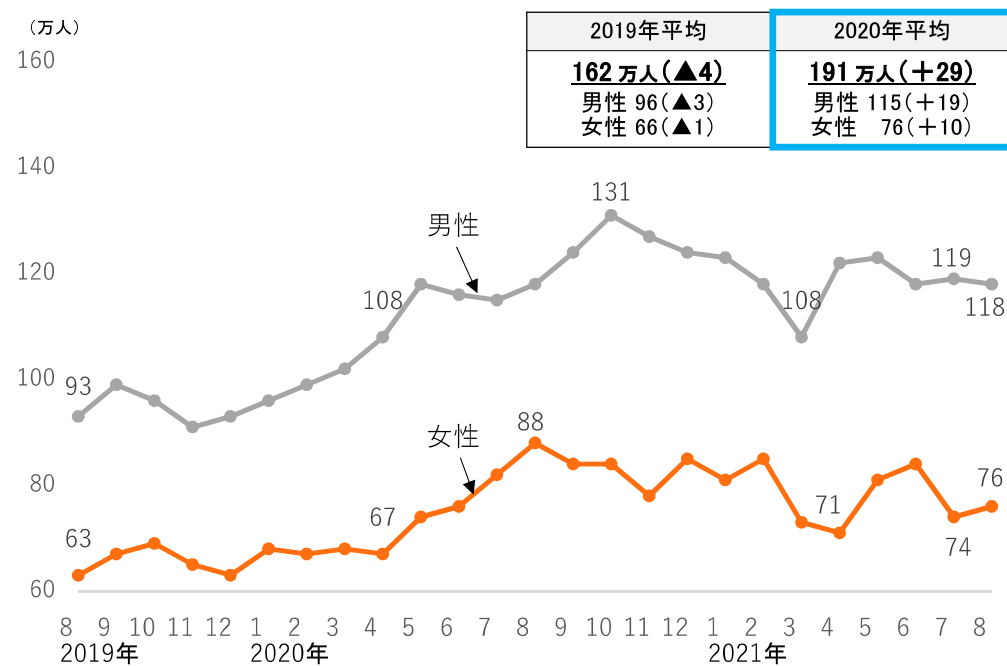
- ✓ 非労働力人口は、男女とも2020年4月に大幅に増加。特に女性の増加幅が男性の倍を超える。2021年5月以降、男女とも減少していたが、2021年8月は男性が大幅に増加、女性は横ばい。
- ✓ 完全失業者数は、男女とも2020年4月以降増加傾向で、男性は2020年10月（131万人）、女性は2020年8月（88万人）がピークとなった。その後も2019年より高い水準で推移。

非労働力人口



(総務省「労働力調査」より作成。季節調整値。)

完全失業者数



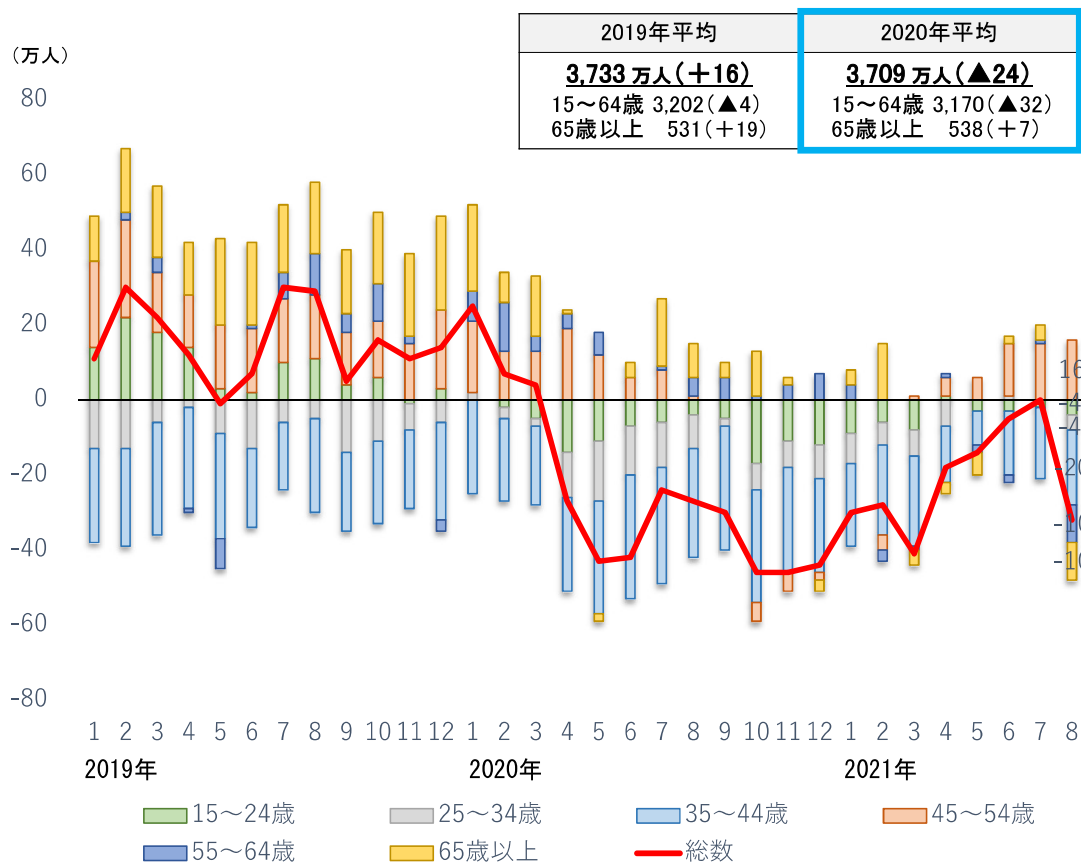
(総務省「労働力調査」より作成。季節調整値。)

1. 就業面等

年齢階級別の就業者数

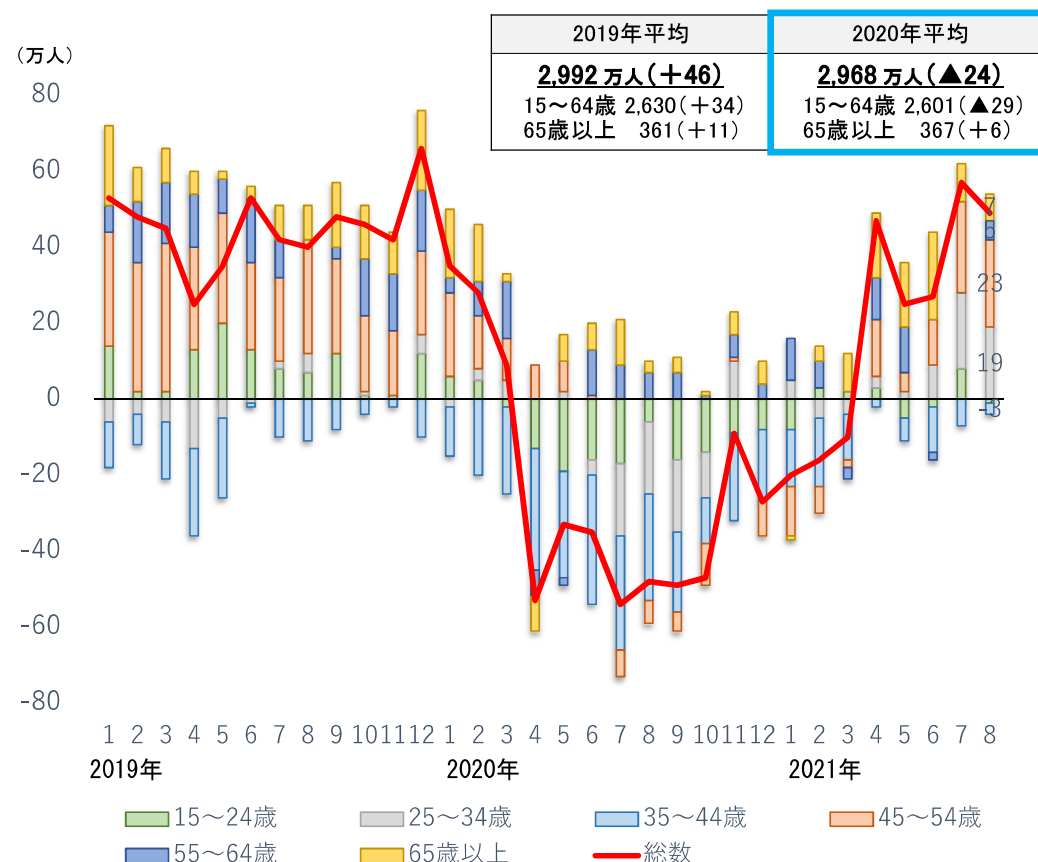
- ✓ 2020年平均を見ると、男女とも15～64歳が減少し、65歳以上が増加。
- ✓ 女性は、2020年4月に、15～24歳、35～44歳で大幅に減少。

年齢階級別就業者数の前年同月差（男性）



(総務省「労働力調査」より作成。原数値。)

年齢階級別就業者数の前年同月差（女性）

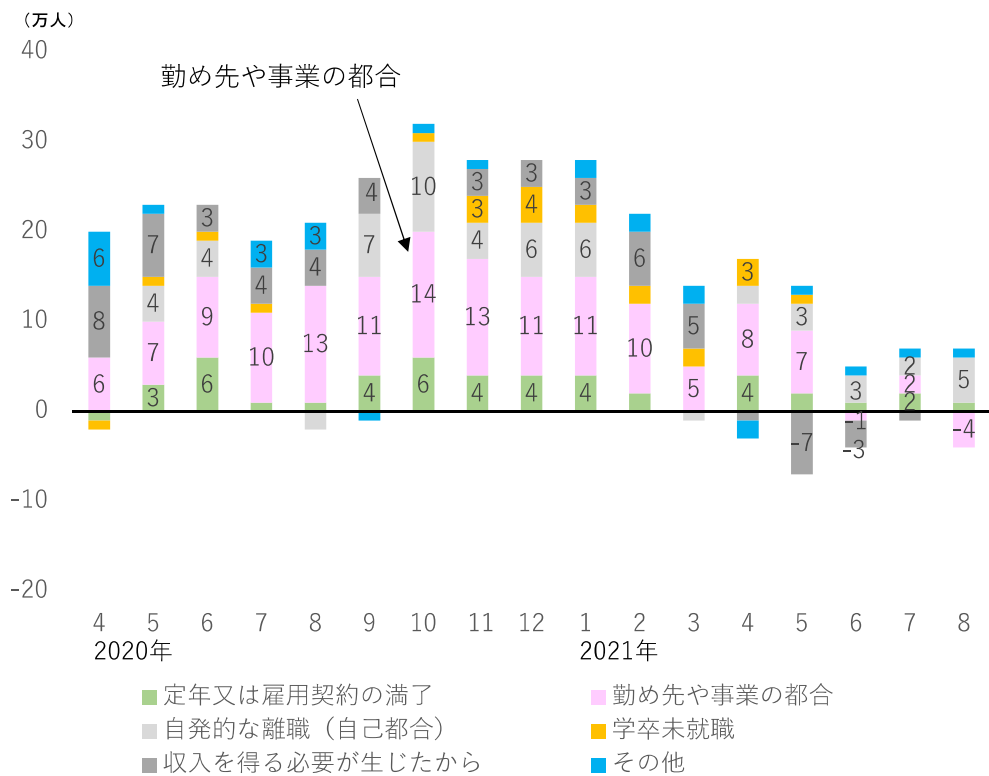


(総務省「労働力調査」より作成。原数値。)

求職理由別完全失業者数の推移

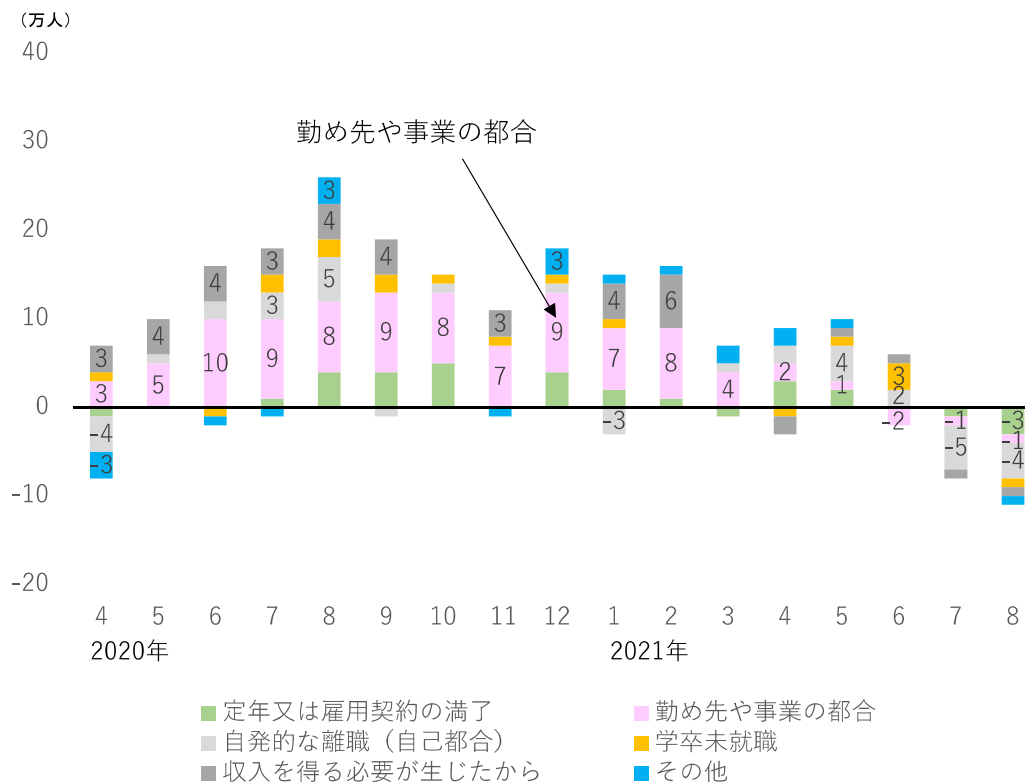
✓ 完全失業者の求職理由は、男女とも2020年4月以降、前年同月差で「勤め先や事業の都合」の増加が続いていた。

求職理由別完全失業者数の前年同月差（男性）



(総務省「労働力調査」より作成。原数値。)

求職理由別完全失業者数の前年同月差（女性）



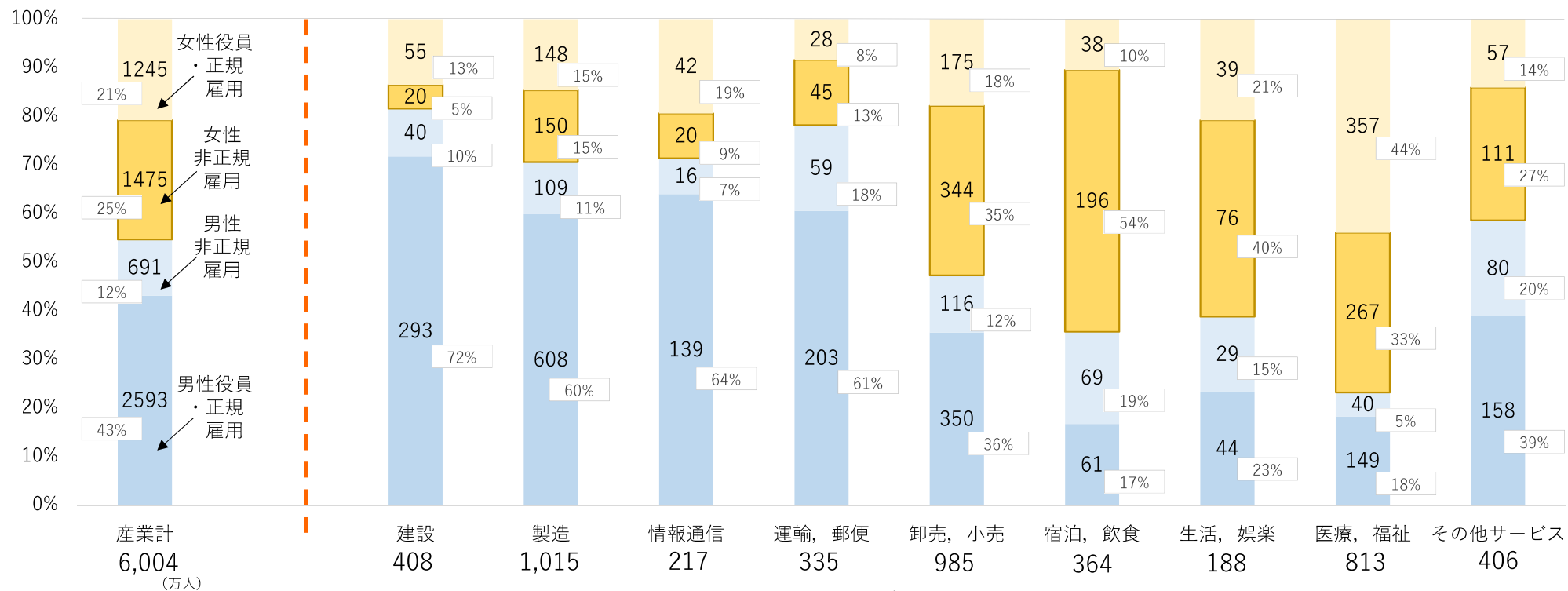
(総務省「労働力調査」より作成。原数値。)

1. 就業面等

産業別雇用者の男女別・雇用形態別の割合（2019年）

- ✓ 女性は男性に比べて非正規雇用労働者の割合が高い。
- ✓ 特に「宿泊，飲食業」「生活，娯楽業」「卸売，小売業」「医療，福祉」は、女性の非正規雇用労働者の割合が高い。
- ✓ また、女性の非正規雇用労働者を人数別で見ると、「卸売，小売業」「医療，福祉」「宿泊，飲食業」が多い。

産業別雇用者の男女別・雇用形態別の割合（2019年）



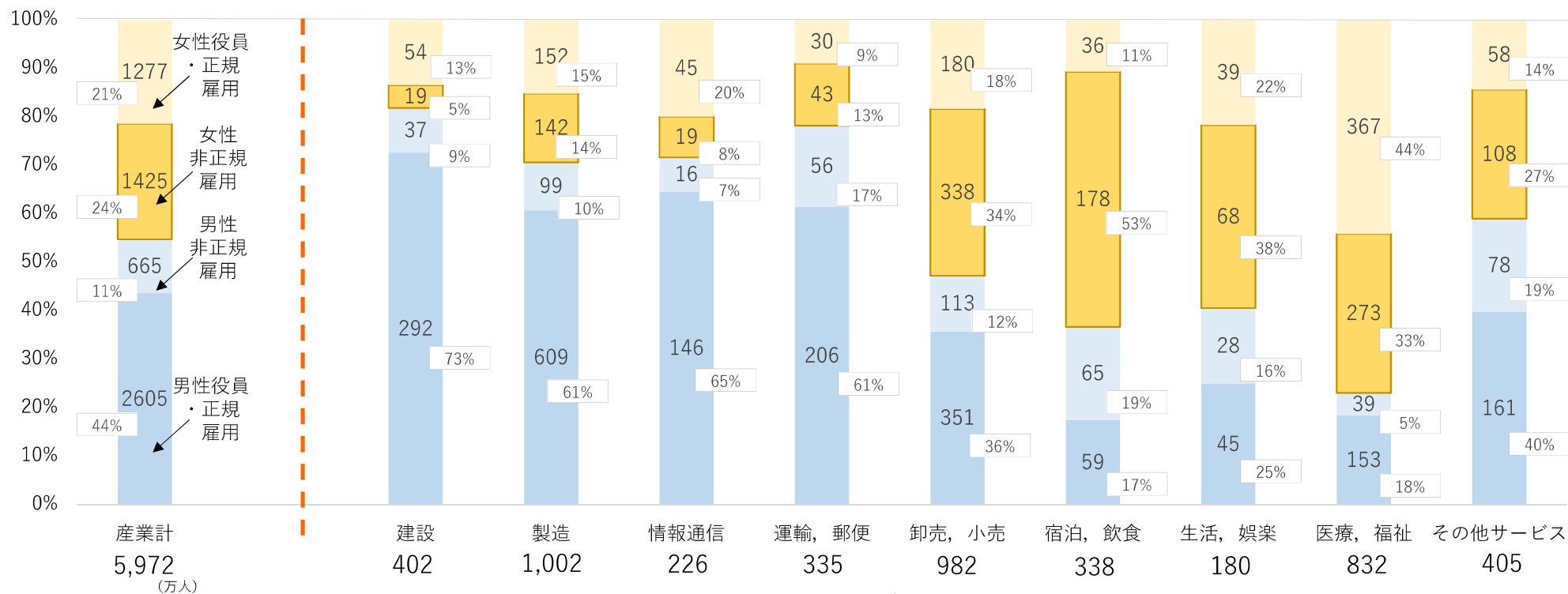
（総務省「労働力調査」より作成。原数値。棒グラフの数値は万人。）

1. 就業面等

産業別雇用者の男女別・雇用形態別の割合（2020年）

- ✓ 女性は男性に比べて非正規雇用労働者の割合が高く、特に、「宿泊，飲食業」「生活，娯楽業」「卸売，小売業」「医療，福祉」の割合が高い。

産業別雇用者の男女別・雇用形態別の割合（2020年）

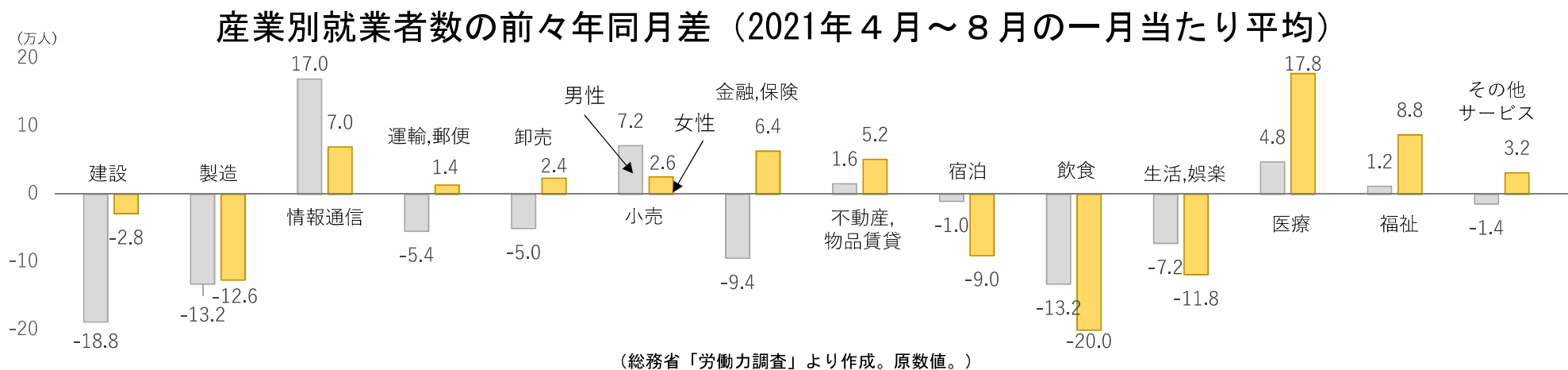
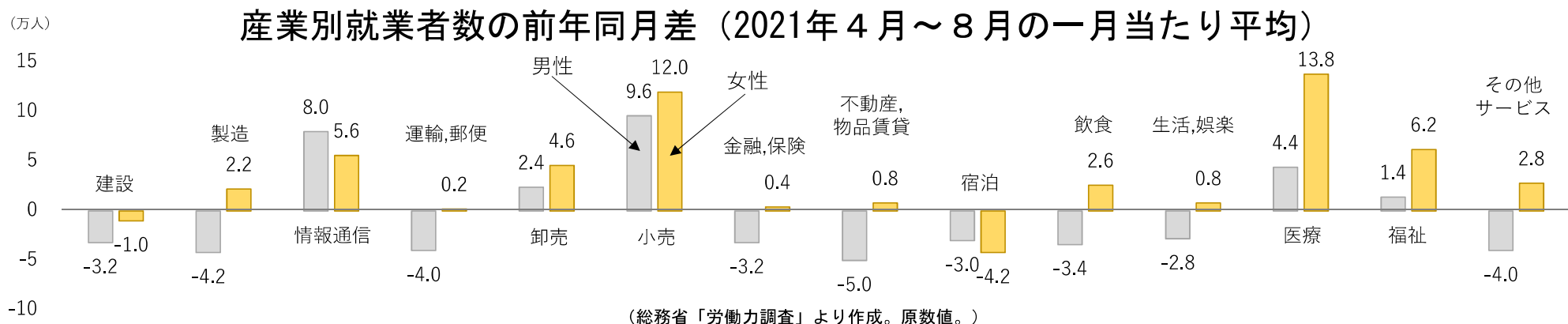


（総務省「労働力調査」より作成。原数値。棒グラフの数値は万人。）

1. 就業面等

産業別就業者数の増減（2021年4月～8月）

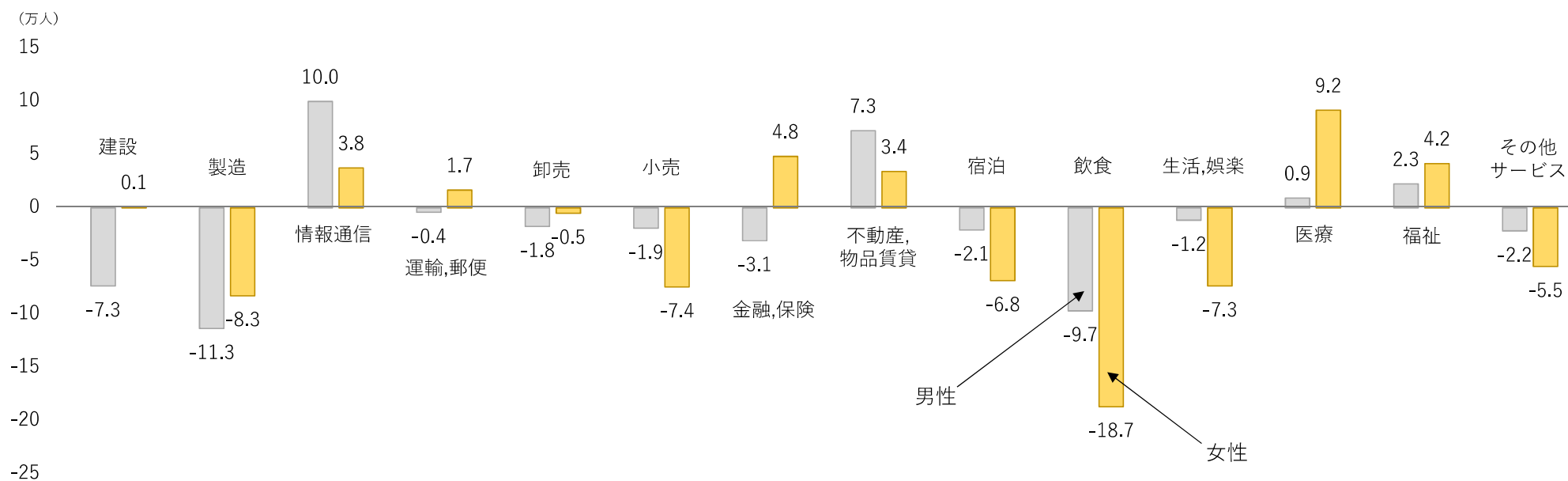
- ✓ 産業別就業者数の2021年度の前年同月差を見ると、女性は、「医療」「小売業」「福祉」「情報通信業」「卸売業」「その他サービス」「飲食業」「生活・娯楽業」等で増加している一方、「宿泊業」「建設業」で減少している。
- ✓ なお、女性の「飲食業」「生活・娯楽業」の就業者数自体は、前々年との比較では減少しており、依然としてコロナ前の水準には戻っていない。



産業別就業者数の増減（2020年度）

- ✓ 産業別就業者数の2020年度の前年同月差を見ると、男女とも「飲食業」「製造業」の減少幅が大きい。
- ✓ 女性は、「飲食業」「製造業」「小売業」「生活、娯楽業」「宿泊業」の就業者数の減少幅が大きい一方、「医療」「金融、保険業」「福祉」「情報通信業」「不動産、物品賃貸業」「運輸、郵便業」は増加。

産業別就業者数の前年同月差（2020年4月～2021年3月の一月当たり平均）



(総務省「労働力調査」より作成。原数値。)

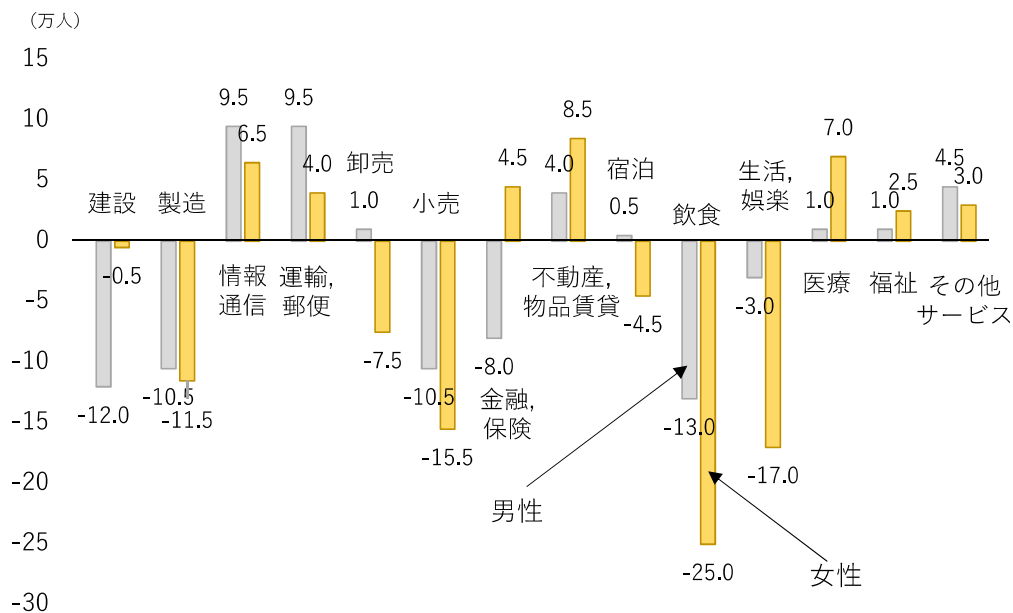
1. 就業面等

産業別就業者数の増減（2020年度の緊急事態宣言中）

- ✓ 産業別就業者数の前年同期差を、一度目の緊急事態宣言中（2020年4～5月）と二度目の緊急事態宣言中（2021年1～3月）に分けて見ると、増減の傾向に類似する点も見られるが、減少幅は全体的に一度目の緊急事態宣言中の方が大きい。一方、「その他サービス業」「宿泊業」など二度目の緊急事態宣言中の方が、就業者数が減少した産業もある。

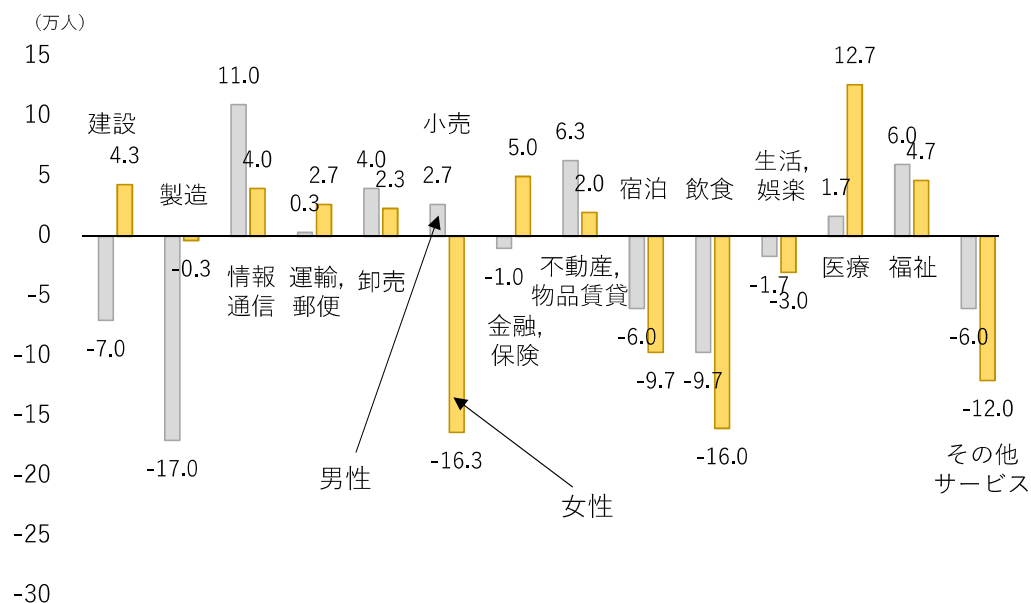
産業別就業者数の前年同期差

【一度目の緊急事態宣言中（2020年4月～5月）の一月当たり平均】



産業別就業者数の前年同期差

【二度目の緊急事態宣言（2021年1月～2021年3月）の一月当たり平均】



(総務省「労働力調査」より作成。原数値。)

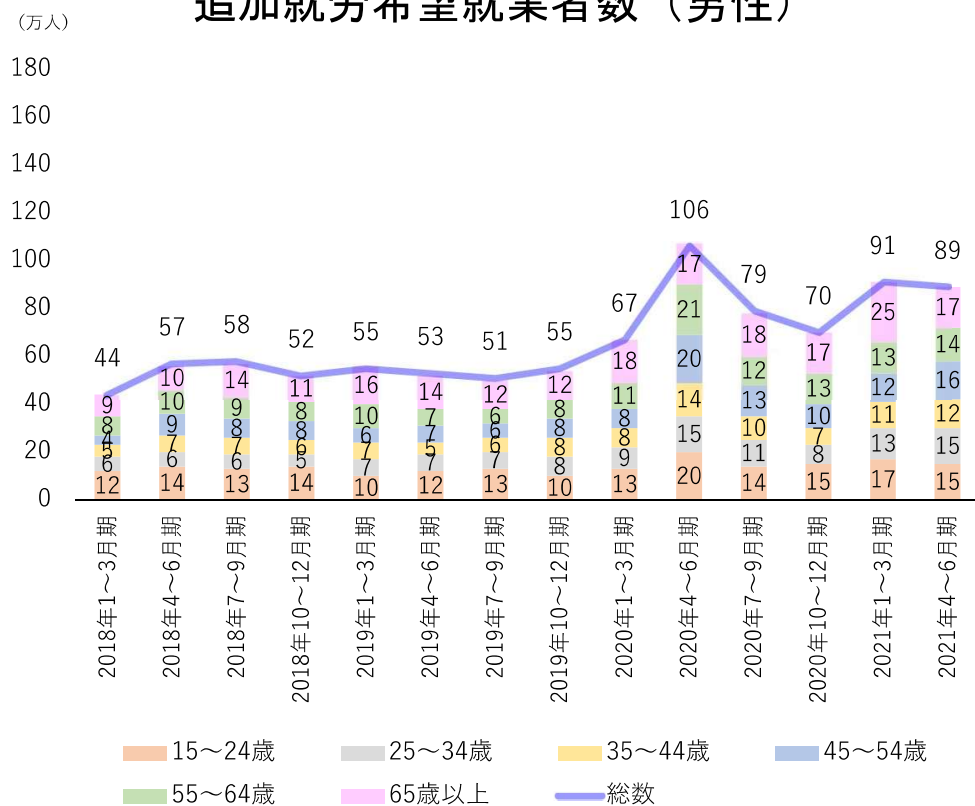
1. 就業面等

追加就労希望就業者数の推移

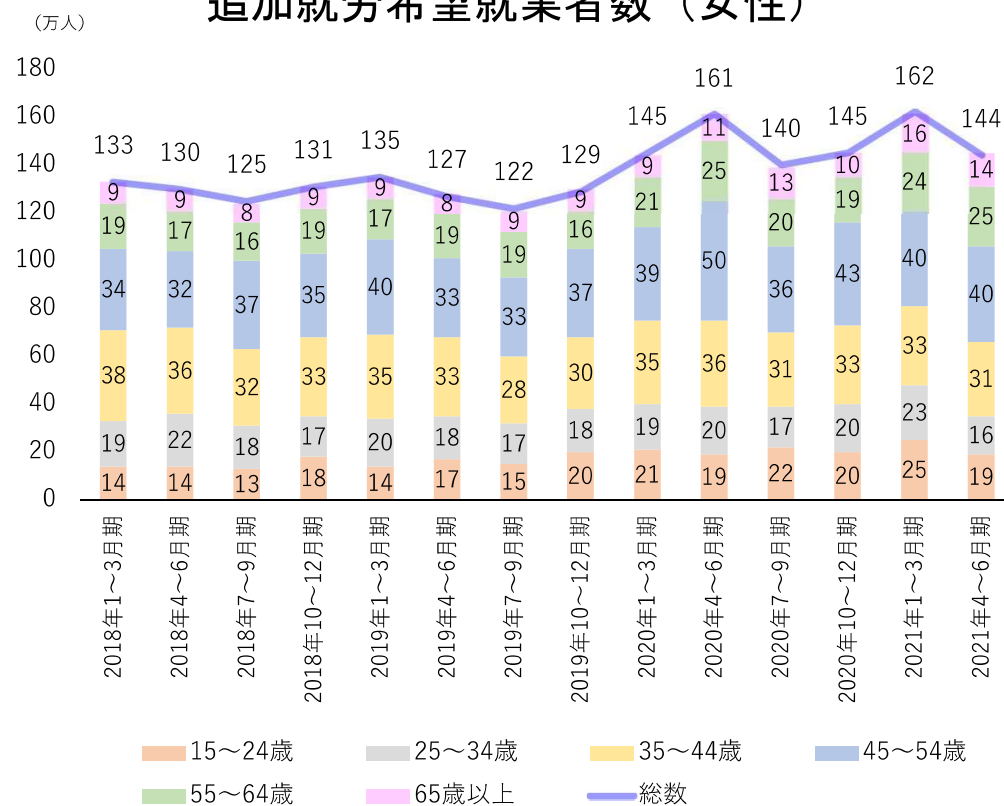
✓ 追加就労希望就業者数※を年齢階級別に見ると、女性では45～54歳、35～44歳が多い。

※「追加就労希望就業者」とは、就業時間が週35時間未満の就業者のうち、就業時間の追加を希望しており、追加できる者のこと。

追加就労希望就業者数（男性）



追加就労希望就業者数（女性）



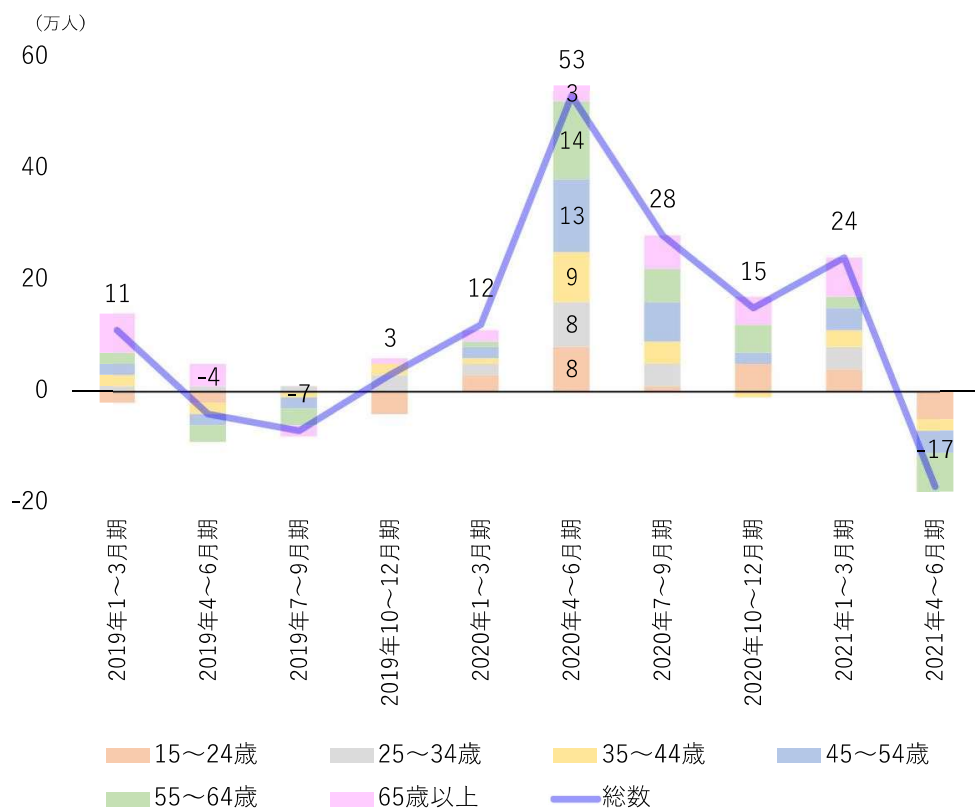
(総務省「労働力調査（詳細集計）」より作成。原数値。)

追加就労希望就業者数の推移

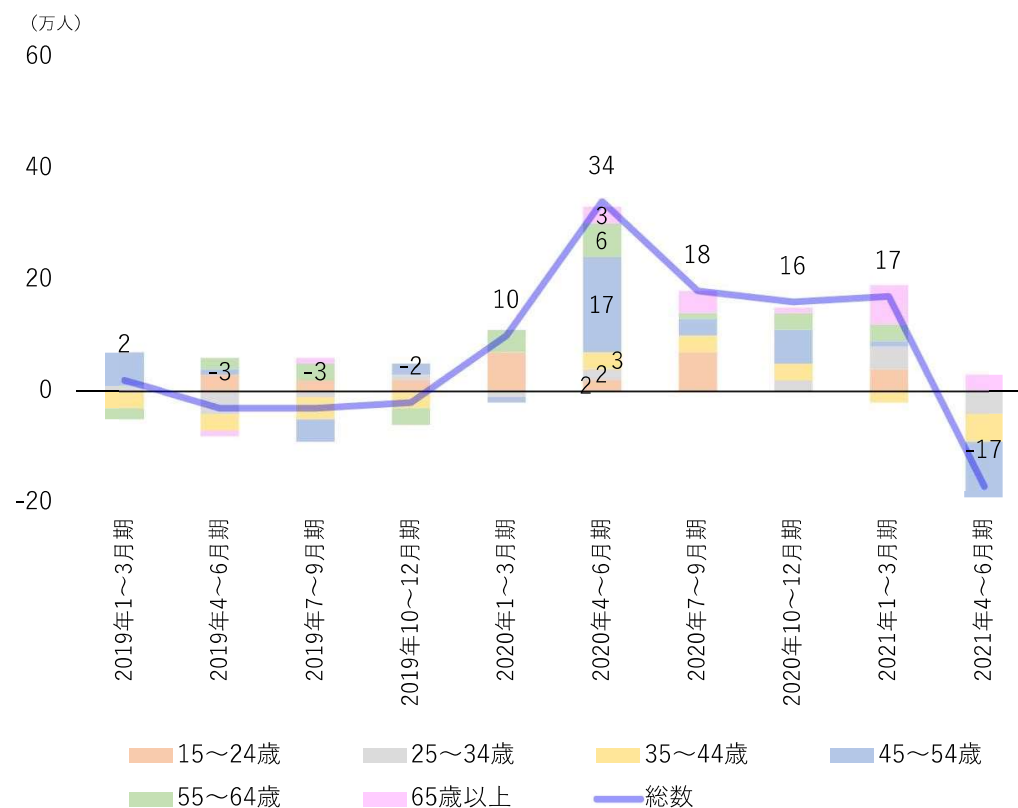
✓ 追加就労希望就業者数※の前年同期差を見ると、男女とも2020年4～6月期に大幅に増加。特に男性の増加幅が大きい。

※「追加就労希望就業者」とは、就業時間が週35時間未満の就業者のうち、就業時間の追加を希望しており、追加できる者のこと。

追加就労希望就業者数の前年同期差（男性）



追加就労希望就業者数の前年同期差（女性）



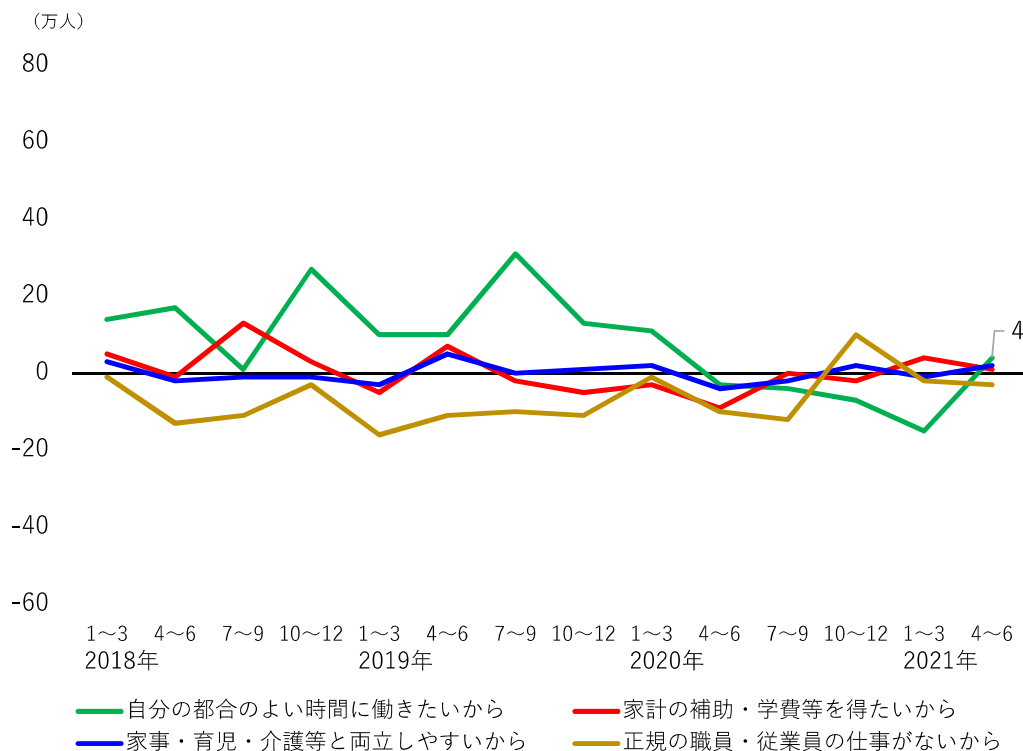
(総務省「労働力調査（詳細集計）」より作成。原数値。)

1. 就業面等

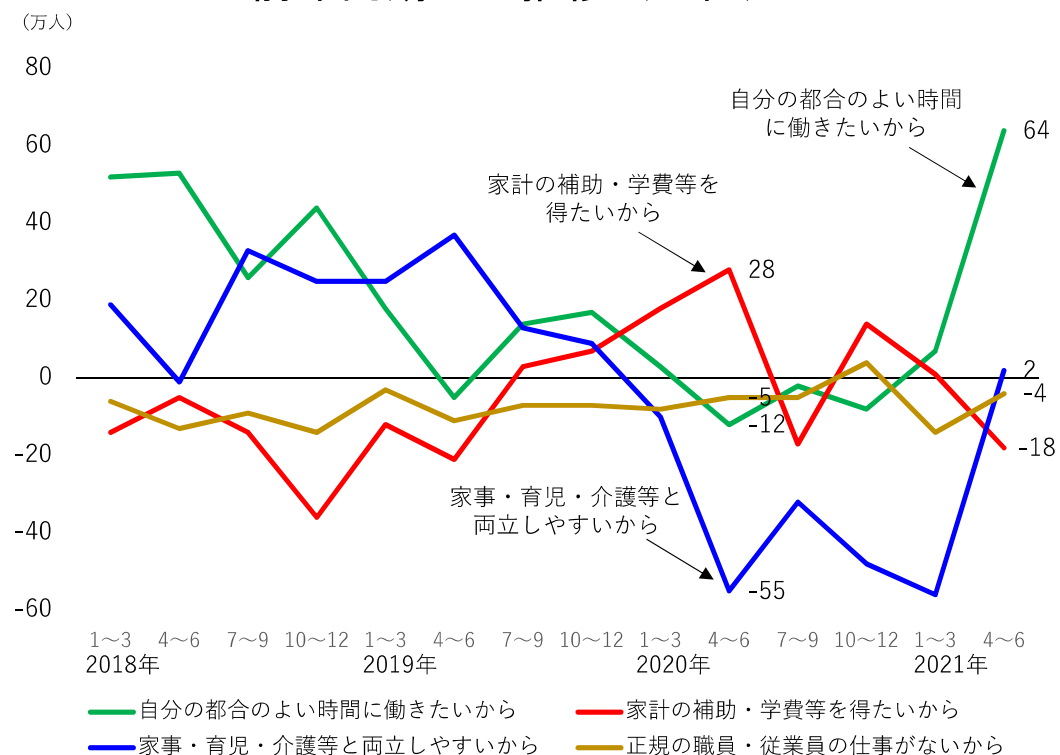
非正規の職員・従業員に就いた主な理由

- ✓ 2020年4～6月期以降、女性は「家事・育児・介護と両立しやすいから」が前年同期差で大幅に減少。
- ✓ 2021年4～6月期は、男女とも「自分の都合のよい時間に働きたいから」が最も増加。

非正規の職員・従業員に就いた主な理由の 前年同期差の推移（男性）



非正規の職員・従業員に就いた主な理由の 前年同期差の推移（女性）

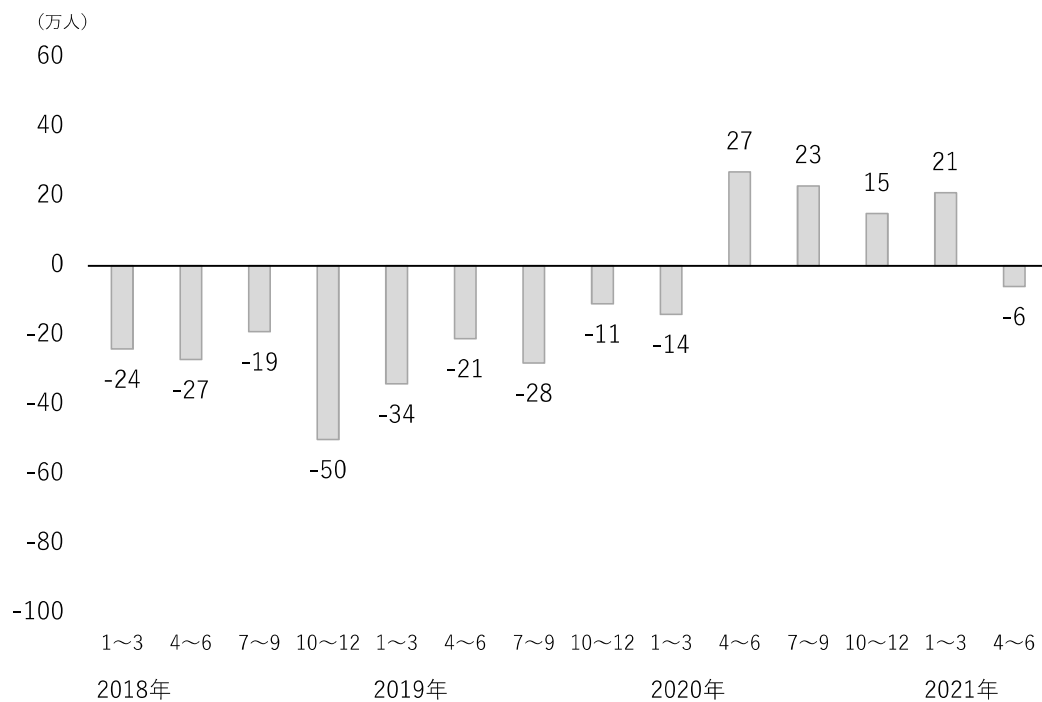


（総務省「労働力調査（詳細集計）」より作成。原数値。「非正規の職員・従業員に就いた主な理由」は、2020年（令和2年）7～9月期平均のうち、「その他」を除く実数の上位4つを選定。） 14

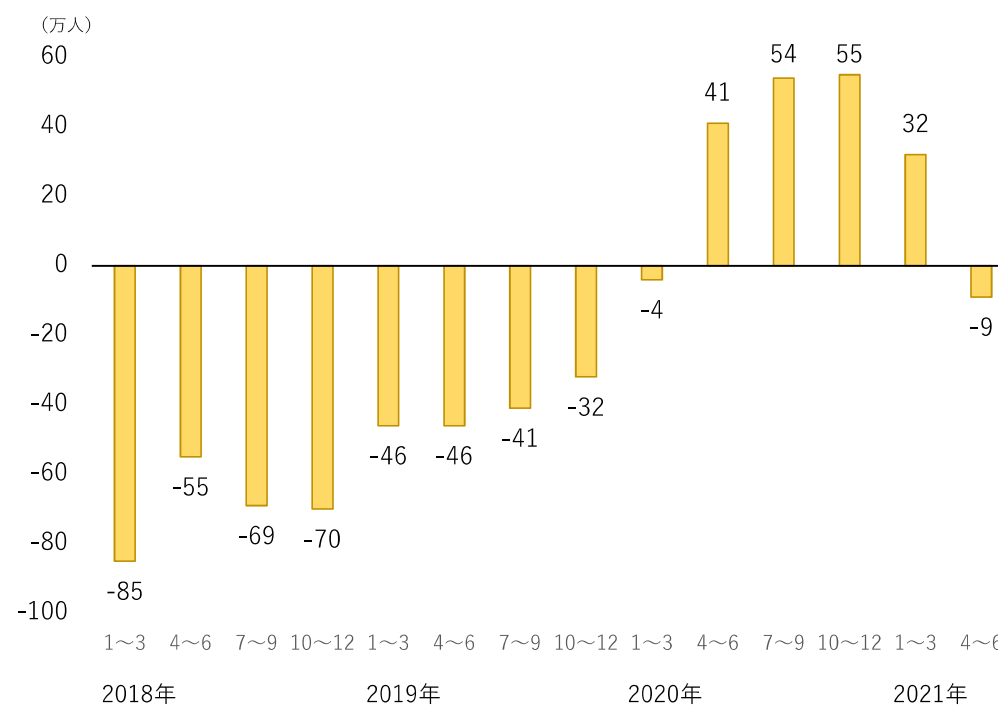
就業非希望者数の推移

✓ 就業非希望者数の前年同期差を見ると、男女とも2020年度は増加。女性の増加幅が大きい。

就業非希望者数の前年同期差（男性）



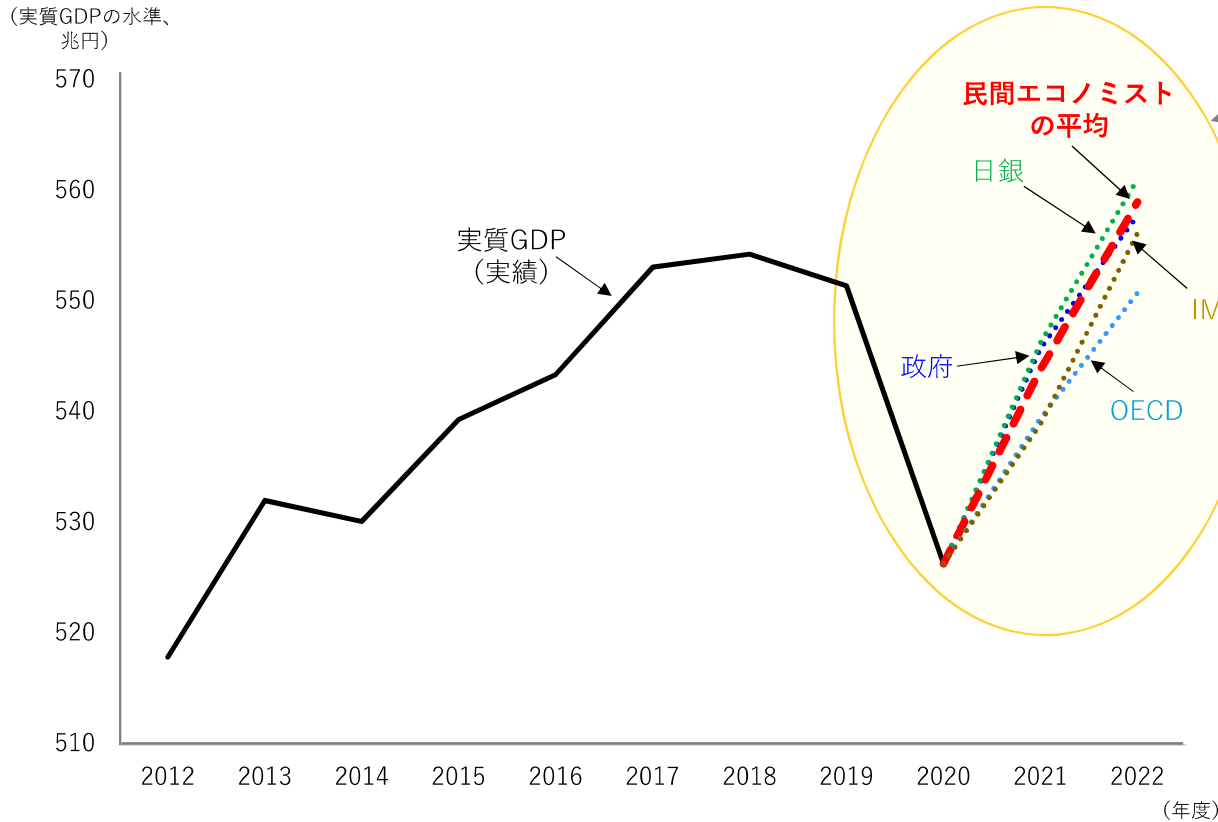
就業非希望者数の前年同期差（女性）



(総務省「労働力調査（詳細集計）」より作成。原数値。「就業非希望者」とは、非労働力人口のうち、就業希望者と就業内定者を除いた者のこと。)

今後の経済見通し

主な機関の実質GDPの見通し



実質GDP成長率の見通し

(カッコ内の数値は2019年度の実績を100とした場合の指数)
* 2020年度は実績値を反映

		2020*	2021	2022
政府	内閣府 (年央試算)	▲4.6% (95.4)	+3.7% _{0程度} (99.0)	+2.2% _{0程度} (101.2)
	日本銀行 (経済・物価情勢の展望)	▲4.6% (95.4)	+3.8% (99.1)	+2.7% (101.7)
民間エコノミストの平均 (ESPフォーキャスト調査)		▲4.6% (95.4)	+3.34% (98.6)	+2.78% (101.4)
国際機関	OECD (暦年)	▲4.6% (95.4)	+2.5% (97.8)	+2.1% (99.9)
	IMF (暦年)	▲4.6% (95.4)	+2.4% (97.7)	+3.2% (100.9)

注：2021・2022のOECD及びIMFの見通しは暦年ベース。()内の指数は年度実績に対する参考値。

※内閣府「国民経済計算」、内閣府「年央試算(2021年7月)」

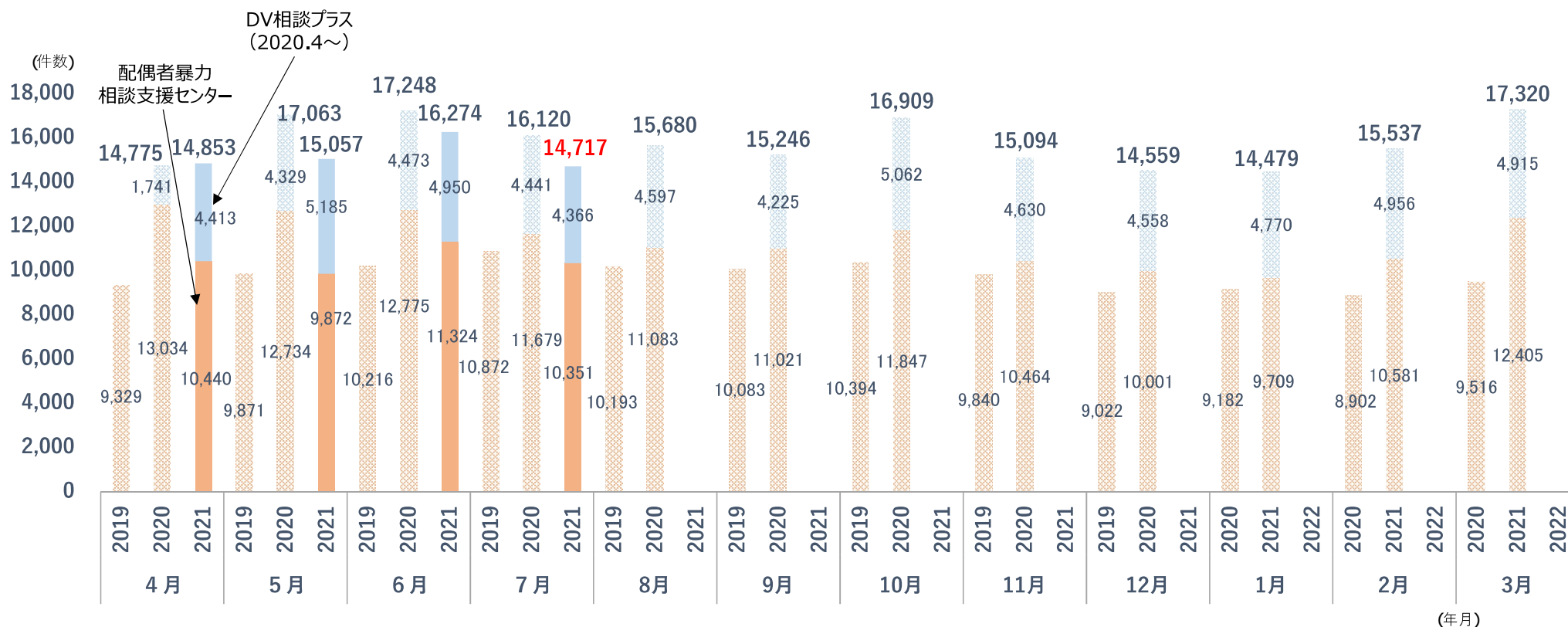
日本銀行「経済・物価情勢の展望(2021年7月)」、公益社団法人日本経済研究センター「ESPフォーキャスト調査(2021年10月)」

OECD「Economic Outlook」(2021年9月)、IMF 2021年10月「世界経済見通し(WEO)」より作成。

2. DVや性暴力等

DV相談件数の推移

- ✓ DV相談件数の推移を見ると、2020年度の相談件数は19万30件であり、2019年度の約1.6倍。
- ✓ 2021年7月の相談件数は、1万4,717件となっている。

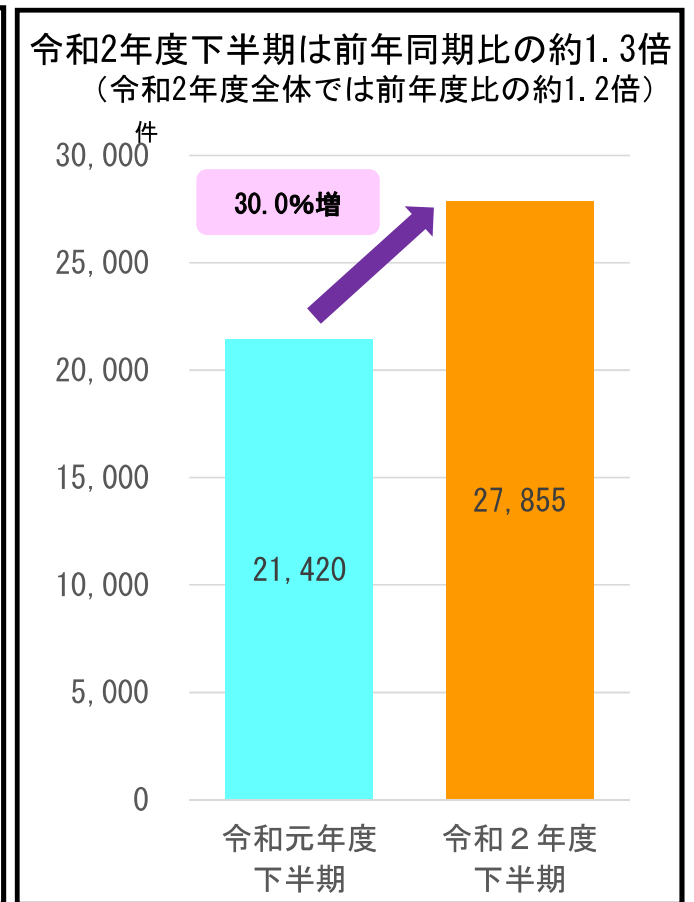
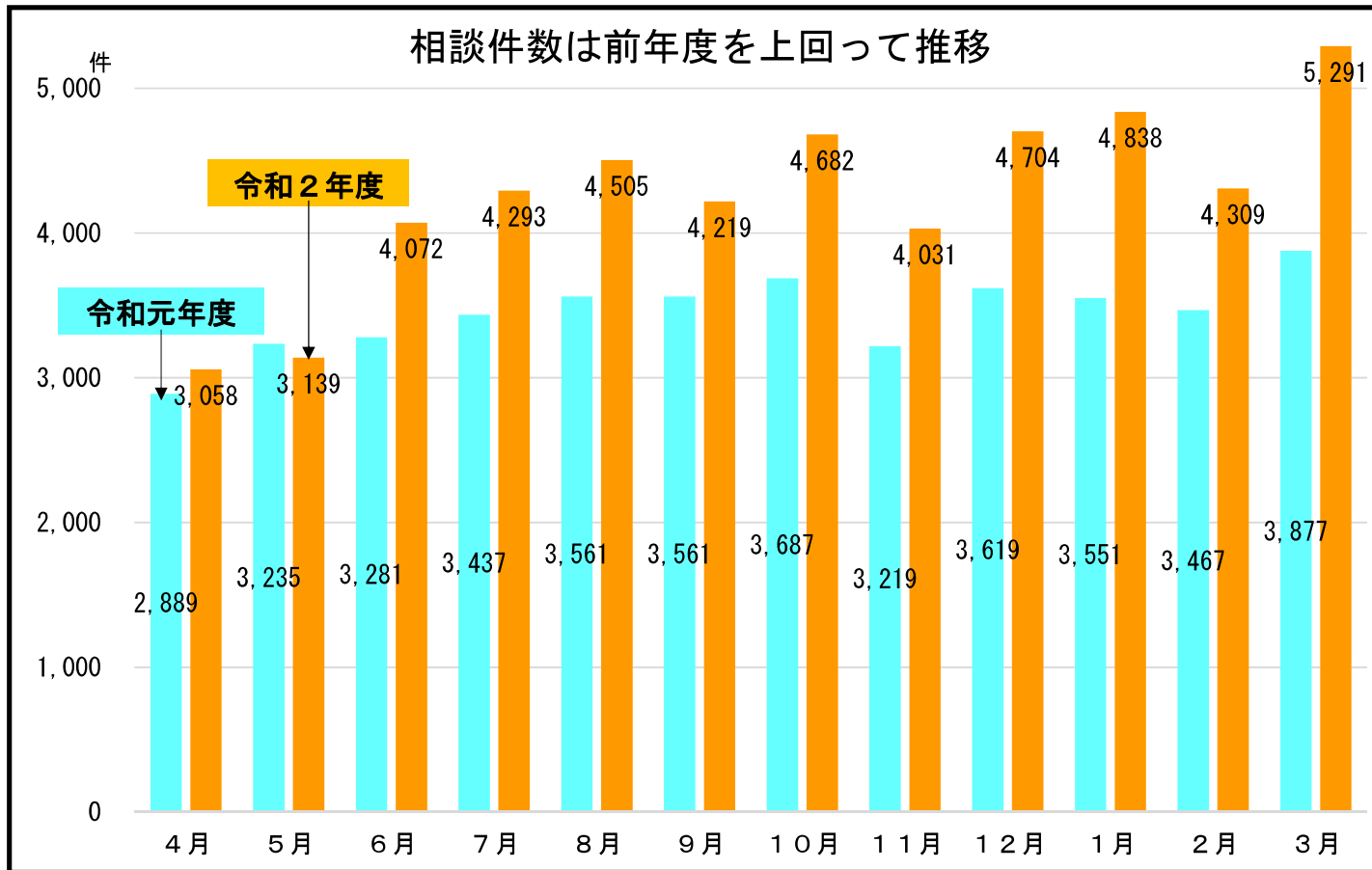


(出典)内閣府男女共同参画局調べ
 ※全国の配偶者暴力相談支援センターからの相談件数は、令和3年7月31日時点の暫定値

2. DVや性暴力等

性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの全国の相談件数の推移

✓ 令和2年度の相談件数は前年度を上回って推移。全体では前年度比で約1.2倍。



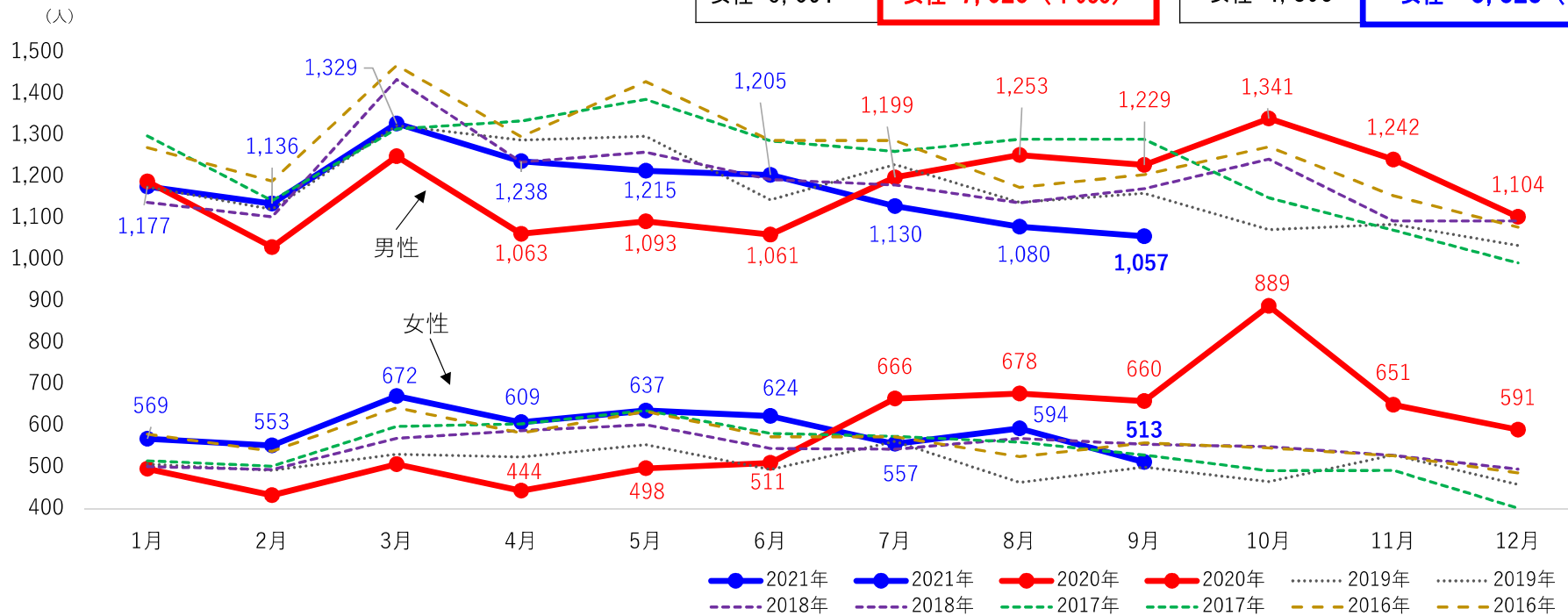
(内閣府男女共同参画局調べ) ※相談件数は、電話・面接・メール・SNSによる相談の合計。

3. 自殺者数の推移

自殺者数の推移

- ✓ 2020年計は、前年より男性は23人減少、女性は935人増加。2021年1～9月計は、前年より男性は199人増加、女性は433人増加。
- ✓ 2021年9月の女性の自殺者数は513人。

2019年計	2020年計	2020年1～9月計	2021年1～9月計
20,169 人	21,081 人 (+912)	15,263 人	15,895 人 (+632)
男性14,078 女性 6,091	男性14,055 (▲23) 女性 7,026 (+935)	男性 10,368 女性 4,895	男性 10,567 (+199) 女性 5,328 (+433)



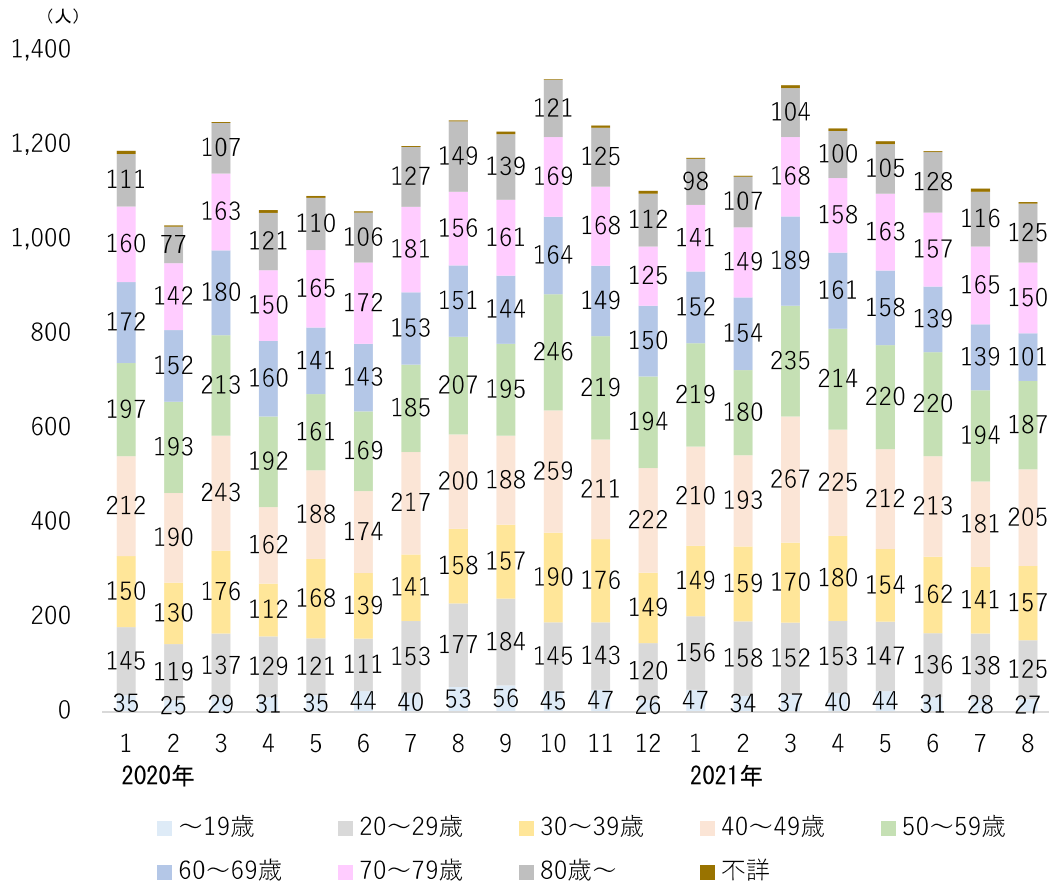
(警察庁HP「自殺者数」より作成。原数値。2020年分までは確定値。2021年分は2021年10月5日時点の速報値。)

3. 自殺者数の推移

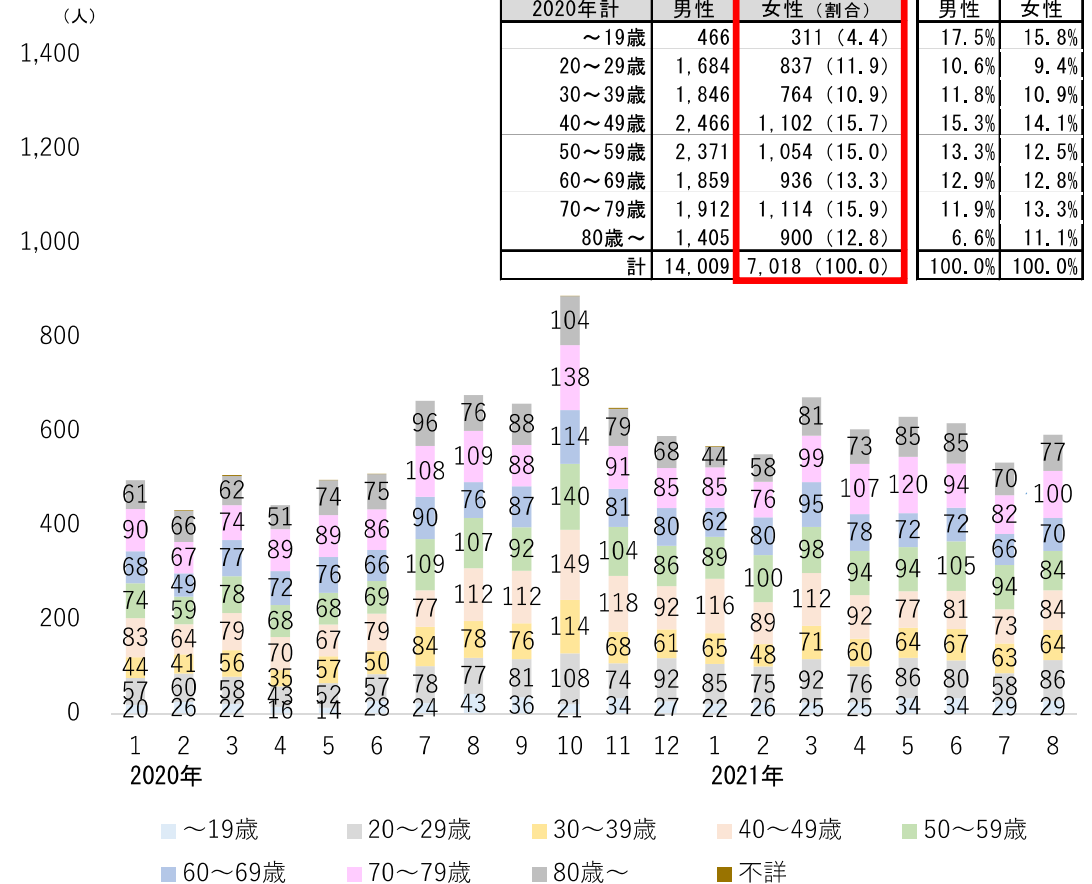
年齢階級別の自殺者数の推移

✓ 女性の自殺者数（2020年）を年齢階級別に見ると、70～79歳、40～49歳、50～59歳が多い。

年齢階級別の自殺者数の推移（男性）



年齢階級別の自殺者数の推移（女性）



(参考) 人口割合

2020年計	男性	女性 (割合)	男性	女性
～19歳	466	311 (4.4)	17.5%	15.8%
20～29歳	1,684	837 (11.9)	10.6%	9.4%
30～39歳	1,846	764 (10.9)	11.8%	10.9%
40～49歳	2,466	1,102 (15.7)	15.3%	14.1%
50～59歳	2,371	1,054 (15.0)	13.3%	12.5%
60～69歳	1,859	936 (13.3)	12.9%	12.8%
70～79歳	1,912	1,114 (15.9)	11.9%	13.3%
80歳～	1,405	900 (12.8)	6.6%	11.1%
計	14,009	7,018 (100.0)	100.0%	100.0%

(厚生労働省HP「自殺の統計」より作成。2020年分までは確定値。2021年分は2021年9月17日時点の「地域における自殺の基礎資料」の暫定値。人口割合は総務省「人口推計」より作成。)

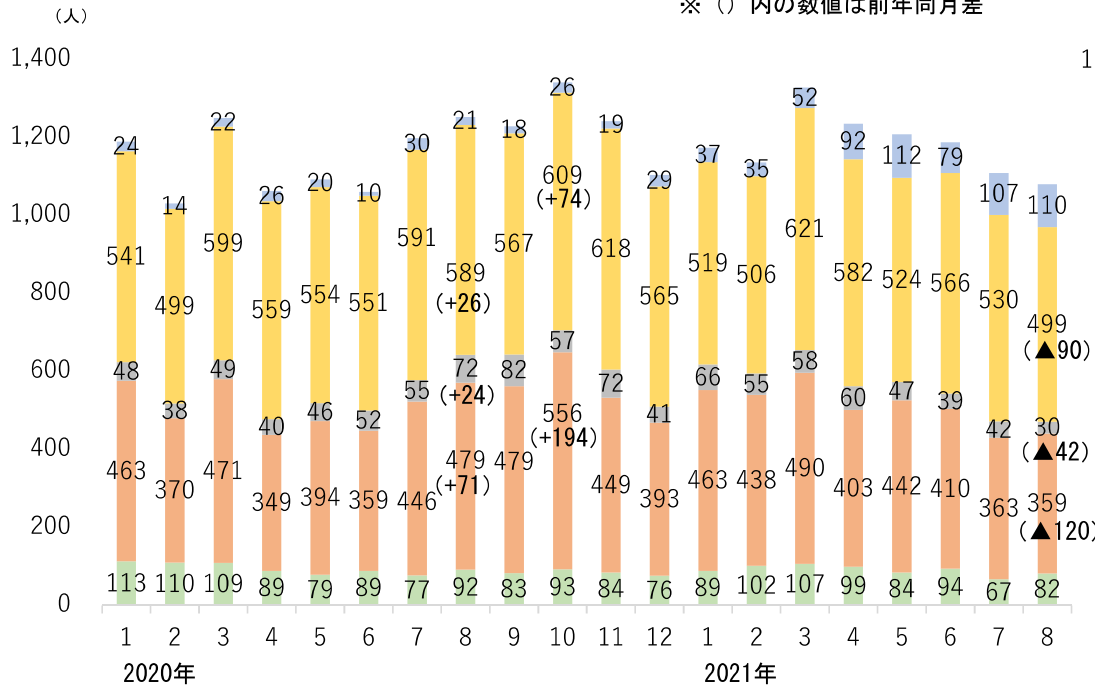
3. 自殺者数の推移

職業別の自殺者数の推移

✓ 職業別で見ると、女性は「無職者」の割合が高い。

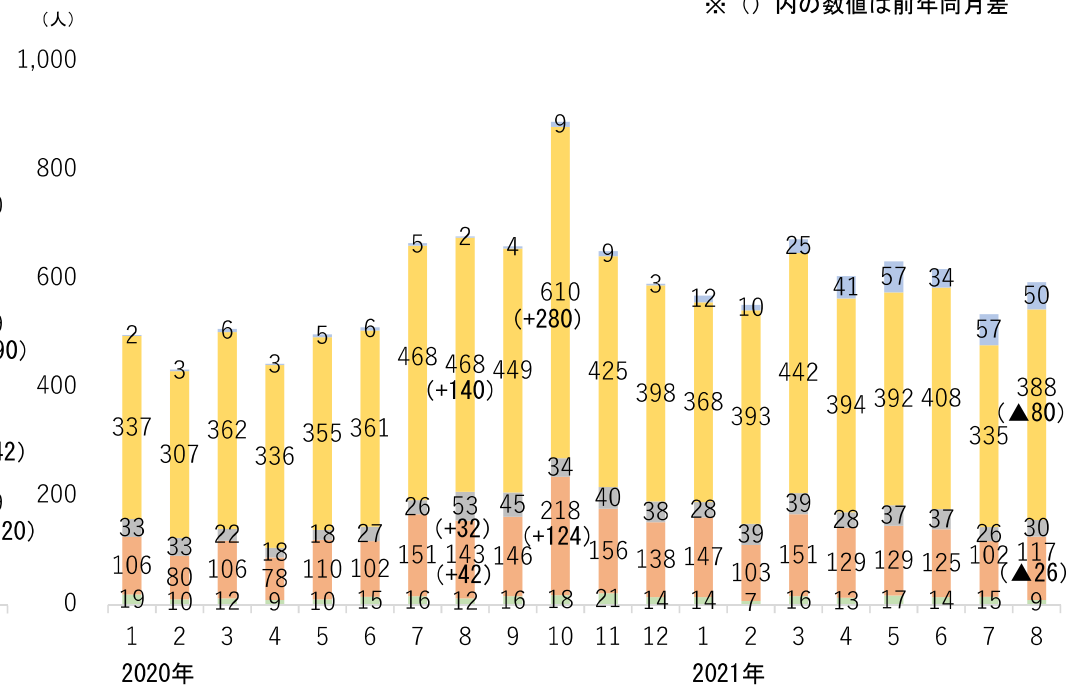
職業別の自殺者数の推移（男性）

※（）内の数値は前年同月差



職業別の自殺者数の推移（女性）

※（）内の数値は前年同月差



■ 自営業者・家族従事者 ■ 被雇用者・勤め人 ■ 学生・生徒等 ■ 無職者 ■ 不詳

■ 自営業者・家族従事者 ■ 被雇用者・勤め人 ■ 学生・生徒等 ■ 無職者 ■ 不詳

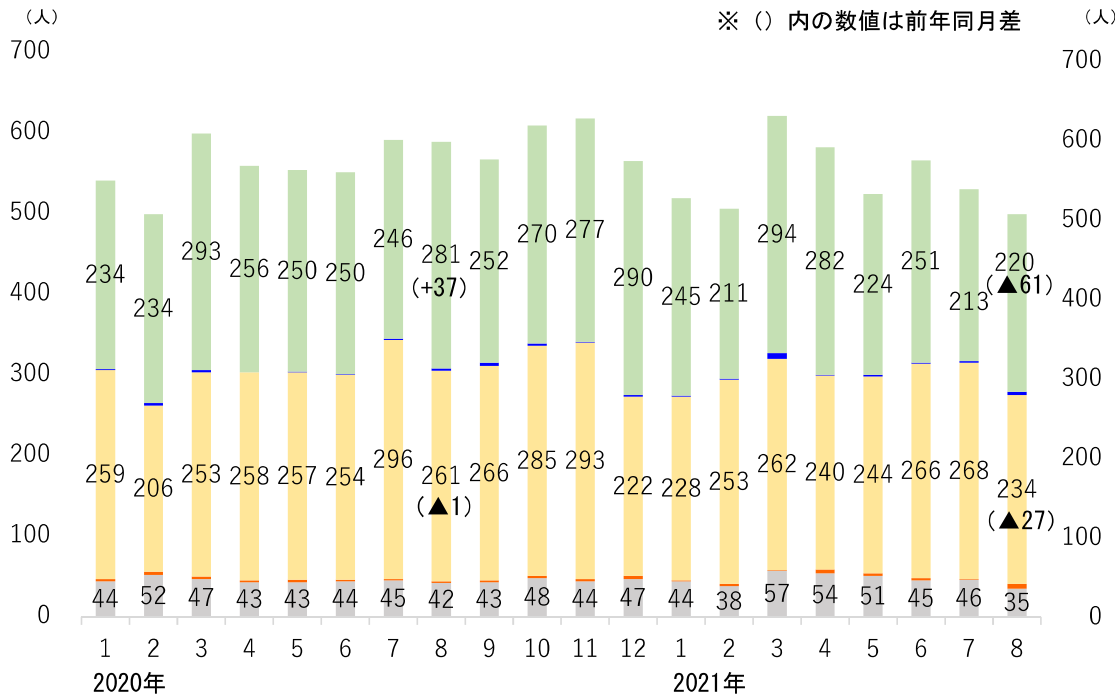
（厚生労働省HP「自殺の統計」より作成。2020年分までは確定値。2021年分は2021年9月17日時点の「地域における自殺の基礎資料」の暫定値。なお、暫定値においては、年齢や職業、原因・動機等において確定値よりも「不詳」が多く見られる。）

3. 自殺者数の推移

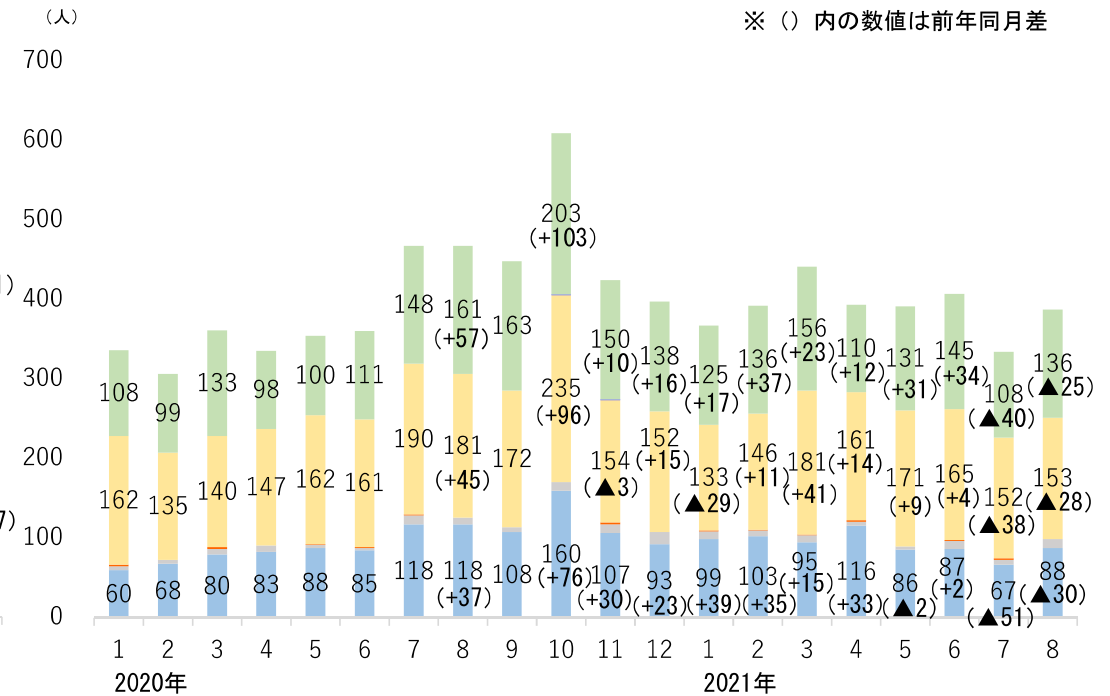
「無職者」の自殺者数の推移

✓ 「無職者」（内訳）で見ると、女性は前年同月差で「主婦」の増加割合が高い傾向にあった。

「無職者」の自殺者数の推移（男性）



「無職者」の自殺者数の推移（女性）



- 失業者
- 年金・雇用保険等生活者
- その他の無職者
- 利子・配当・家賃等生活者
- 浮浪者

- 主婦
- 利子・配当・家賃等生活者
- 浮浪者
- 失業者
- 年金・雇用保険等生活者
- その他の無職者

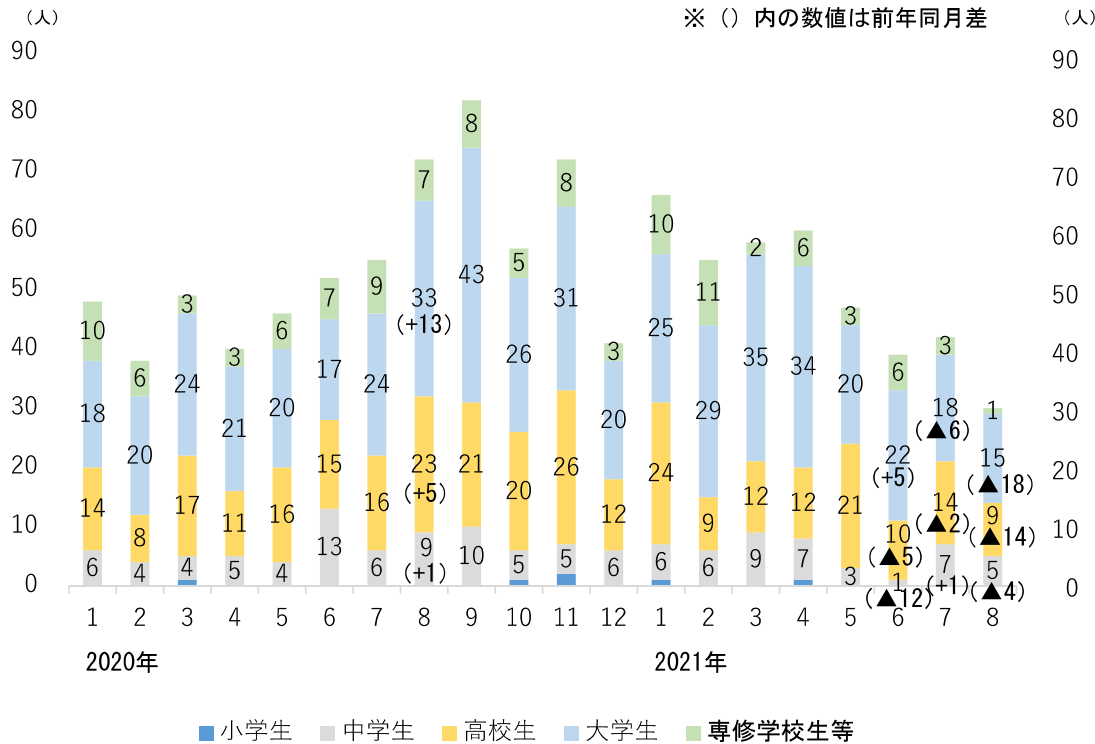
(厚生労働省HP「自殺の統計」より作成。2020年分までは確定値。2021年分は2021年9月17日時点の「地域における自殺の基礎資料」の暫定値。)

3. 自殺者数の推移

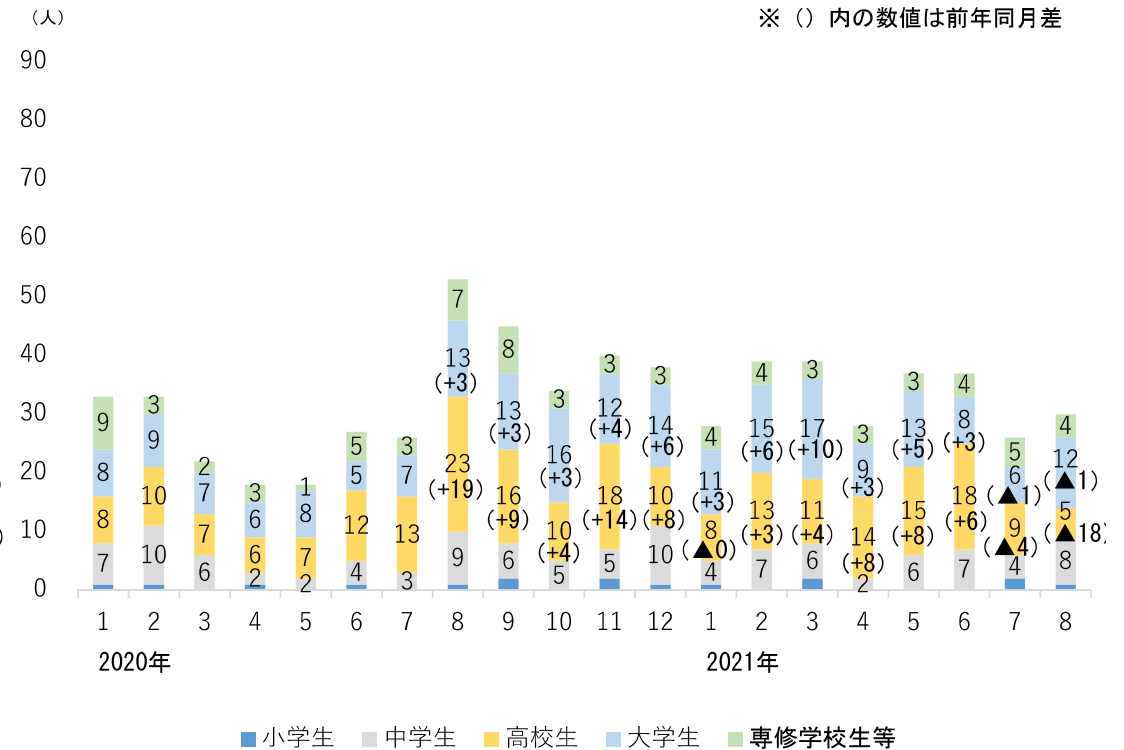
「学生・生徒等」の自殺者数の推移

✓ 「学生・生徒等」（内訳）で見ると、女性は2020年8月に「高校生」が23人、前年同月差で19人の増加。

「学生・生徒等」の自殺者数の推移（男性）



「学生・生徒等」の自殺者数の推移（女性）



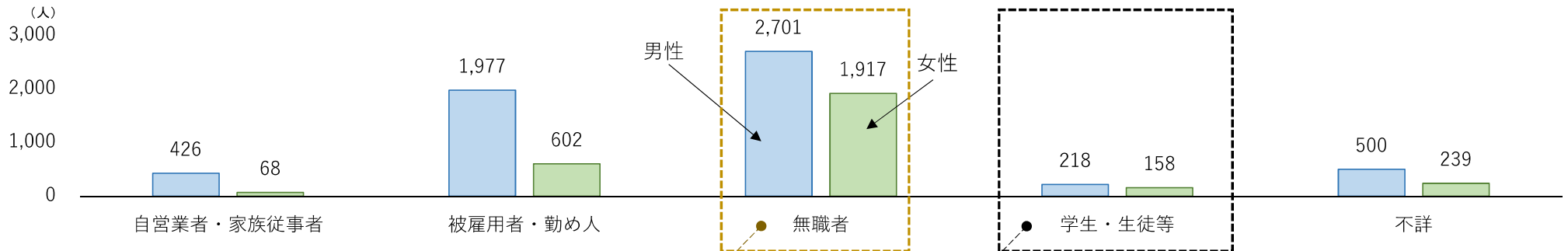
(厚生労働省HP「自殺の統計」より作成。2020年分までは確定値。2021年分は2021年9月17日時点の「地域における自殺の基礎資料」の暫定値。)

3. 自殺者数の推移

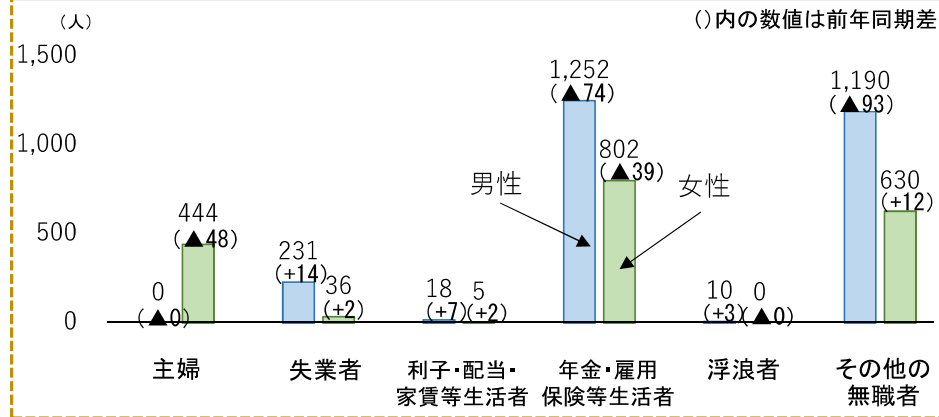
自殺者数の内訳（2021年4月～8月の累計）

- ✓ 「学生・生徒等」について、実数値では、男性の「大学生」が最も多い。
- ✓ 前年同期差を見ると、女性の「大学生」の増加が最も大きく「中学生」も増加している。

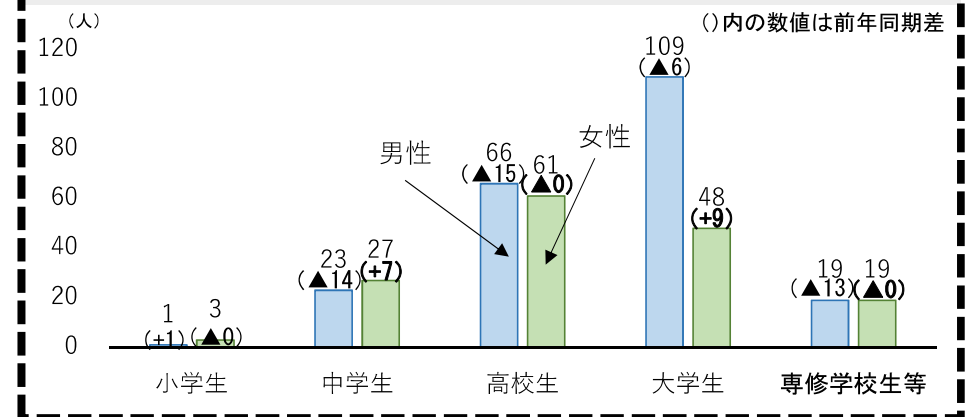
職業別の自殺者数（2021年4月～8月の累計）



「無職者」の内訳



「学生・生徒等」の内訳



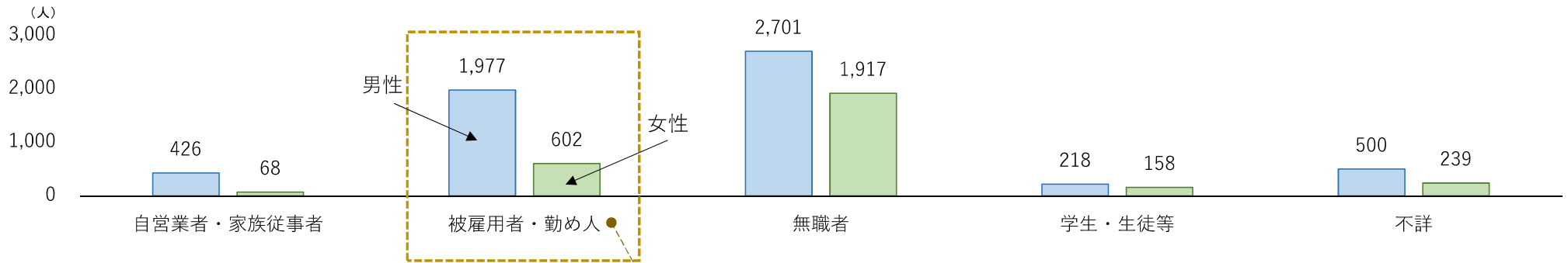
(厚生労働省HP「自殺の統計」より作成。2021年9月17日時点の「地域における自殺の基礎資料」の暫定値。なお、暫定値においては、年齢や職業、原因・動機等において確定値よりも「不詳」が多く見られる。)

3. 自殺者数の推移

自殺者数の内訳（2021年4月～8月の累計）

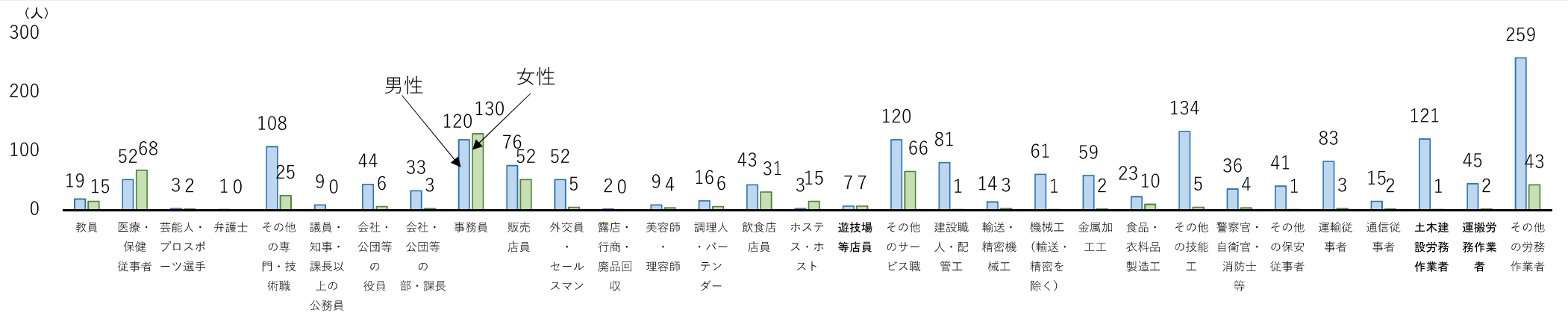
- ✓ 「被雇用者・勤め人」では、男女とも「事務員」が多く、特に女性ではその割合が最も高い。
男性は「その他の労務作業員」「その他の技能工」「土木建設労務作業員」が多い。

職業別の自殺者数（2021年4月～8月の累計）



「被雇用者・勤め人」の内訳

※「その他」を除く



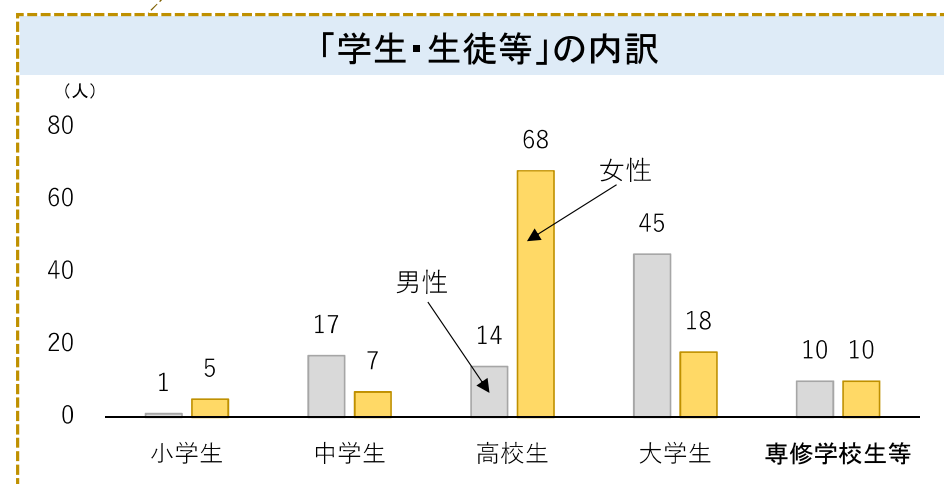
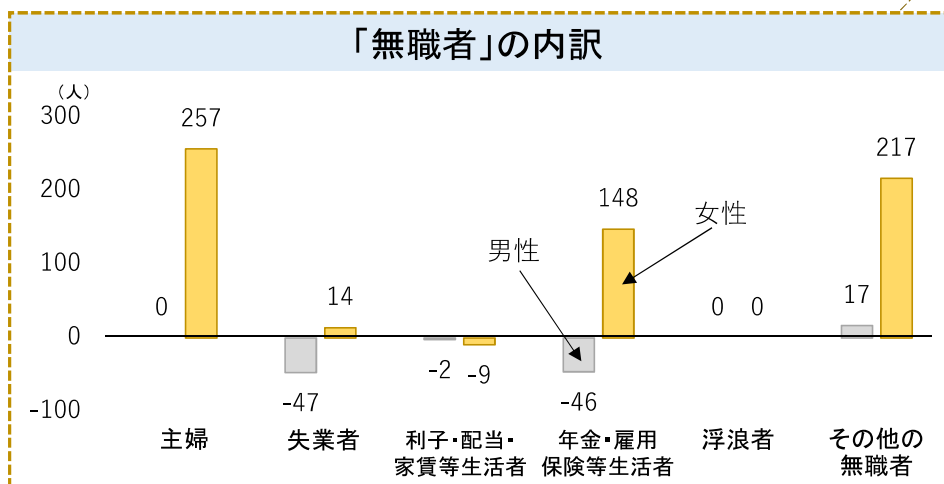
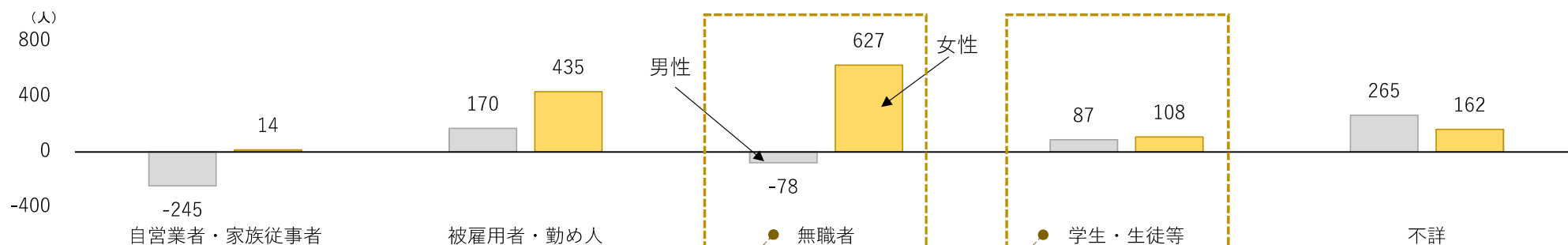
（厚生労働省HP「自殺の統計」より作成。2021年9月17日時点の「地域における自殺の基礎資料」の暫定値。なお、暫定値においては、年齢や職業、原因・動機等において確定値よりも「不詳」が多く見られる。）

3. 自殺者数の推移

自殺者数の増減（2020年度）（前年度差）

✓ 女性は、「無職者」では「主婦」が、「学生・生徒等」では「高校生」が、特に増加。

職業別の自殺者数の前年度差（2020年4月～2021年3月の累計）



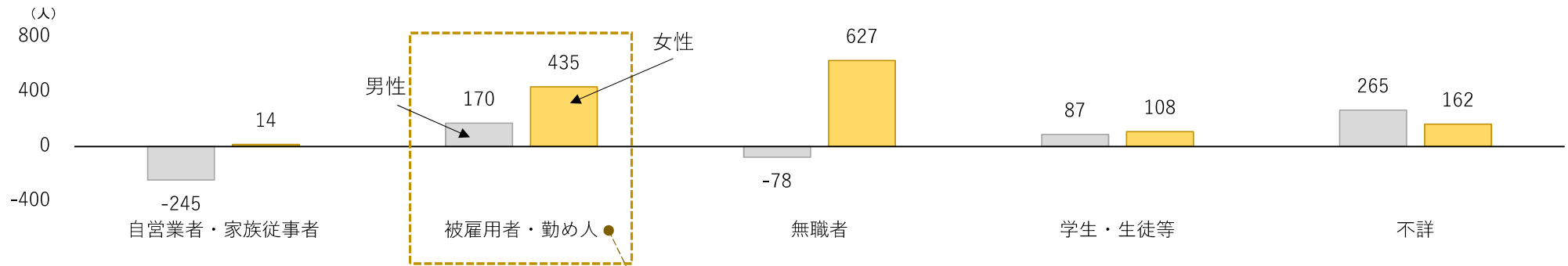
（厚生労働省HP「自殺の統計」より作成。2020年分までは確定値。2021年分は2021年4月21日時点の「地域における自殺の基礎資料」の暫定値。）

3. 自殺者数の推移

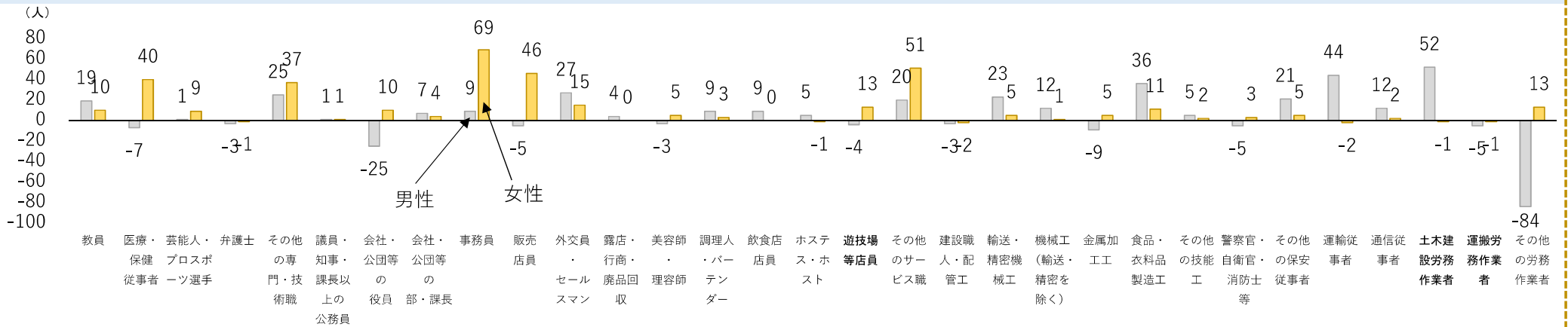
自殺者数の増減（2020年度）（前年度差）

- ✓ 「被雇用者・勤め人」では、女性は「事務員」「その他のサービス職」「販売店員」「医療・保健従事者」等が、男性は「土木建設労務作業員」「運輸従事者」「食品・衣料品製造工」等が、特に増加。

職業別の自殺者数の前年度差(2020年4月～2021年3月の累計)



「被雇用者・勤め人」の内訳



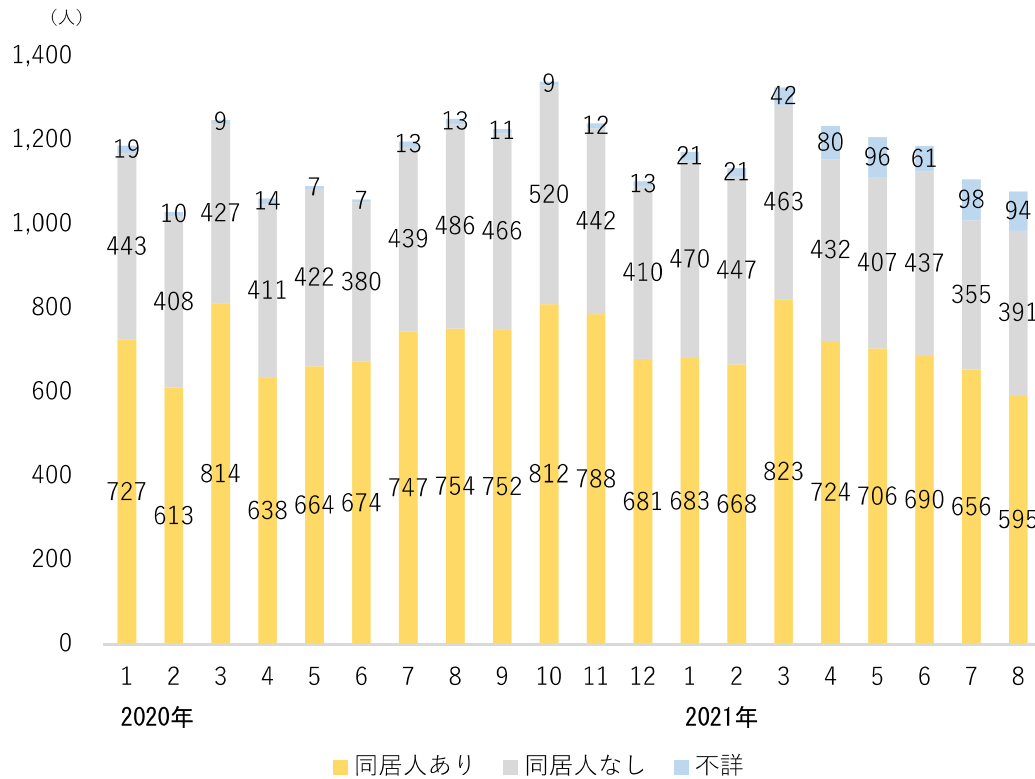
(厚生労働省HP「自殺の統計」より作成。2020年分までは確定値。2021年分は2021年4月21日時点の「地域における自殺の基礎資料」の暫定値。)

3. 自殺者数の推移

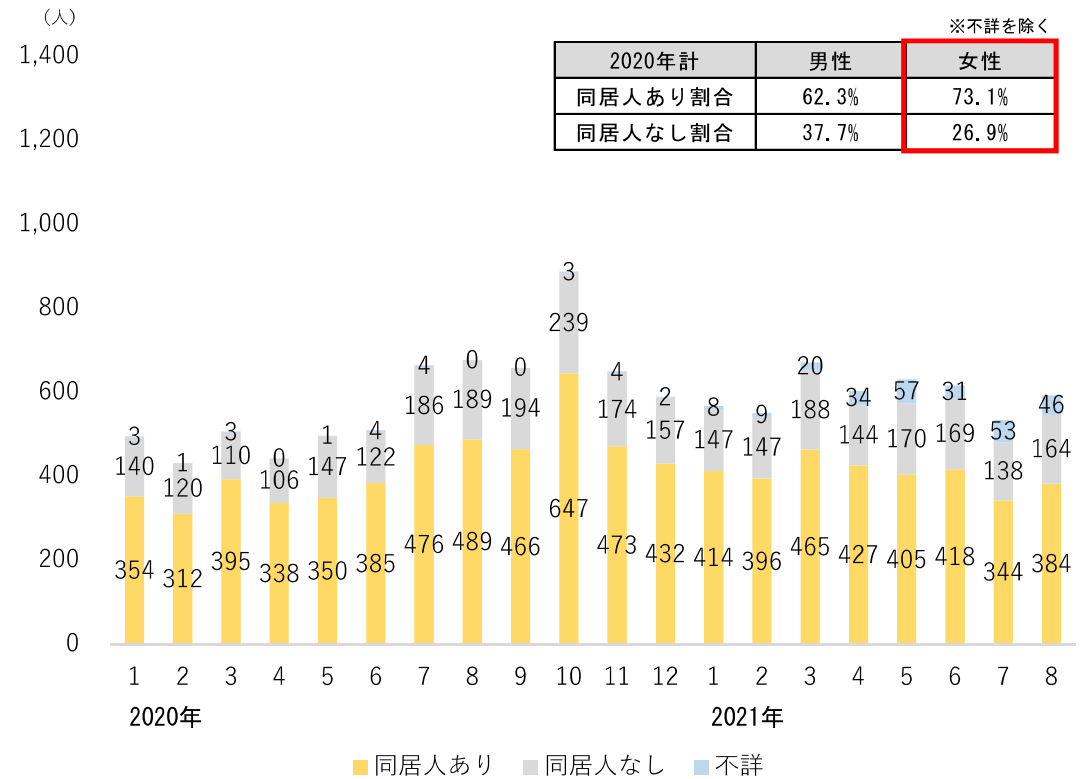
同居人有無別の自殺者数の推移

✓ 同居人有無別の自殺者数の推移を見ると、女性は「同居人ありの自殺者」の割合が高い。

同居人有無別の自殺者数の前年同月差（男性）



同居人有無別の自殺者数の前年同月差（女性）



※不詳を除く

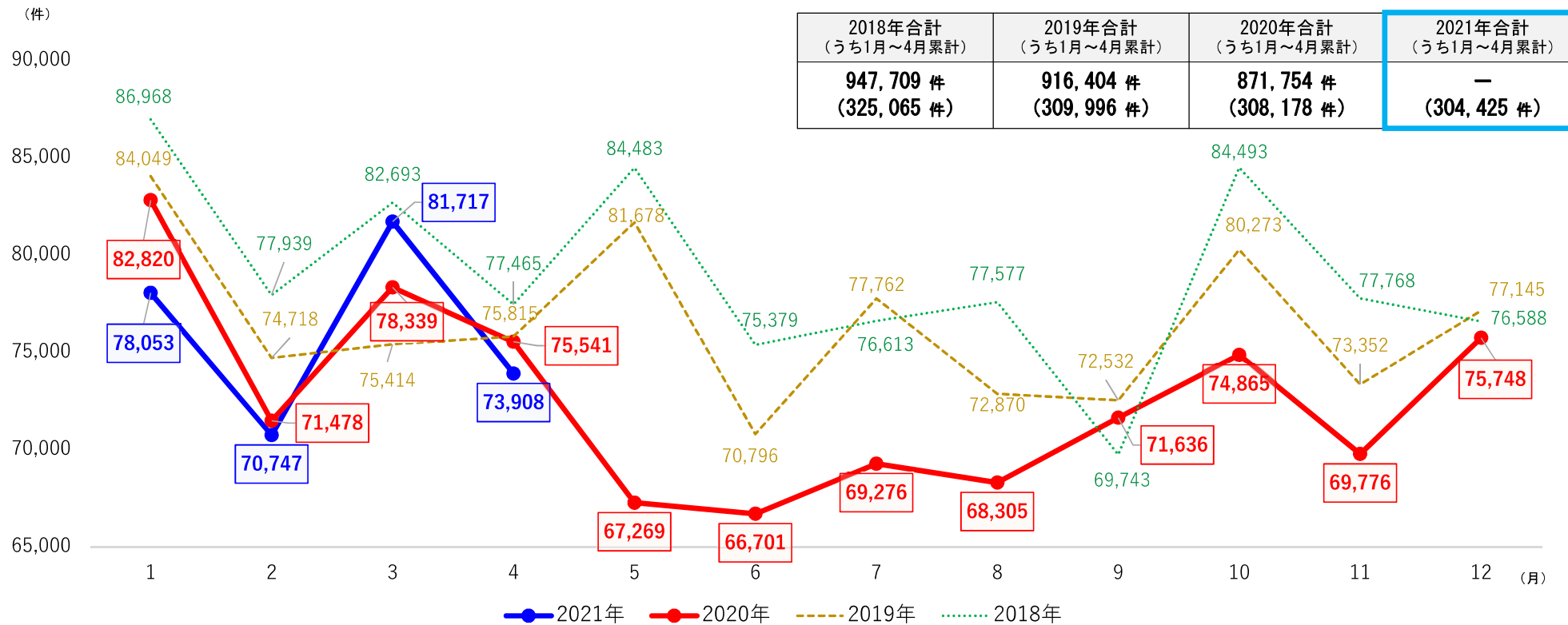
2020年計	男性	女性
同居人あり割合	62.3%	73.1%
同居人なし割合	37.7%	26.9%

(厚生労働省HP「自殺の統計」より作成。2020年分までは確定値。2021年分は2021年9月17日時点の「地域における自殺の基礎資料」の暫定値。
 なお、暫定値においては、年齢や職業、原因・動機等において確定値よりも「不詳」が多く見られる。)

妊娠届出数の推移

- ✓ 2020年の妊娠届出数は871,754件で、前年比4.9%減少。
- ✓ 2021年1月～4月の累計妊娠届出数は304,425件で、前年同期比1.2%減少。

月別妊娠届出数の推移



(厚生労働省HP「妊娠届出数の状況について(令和3年8月27日時点)」より作成。)

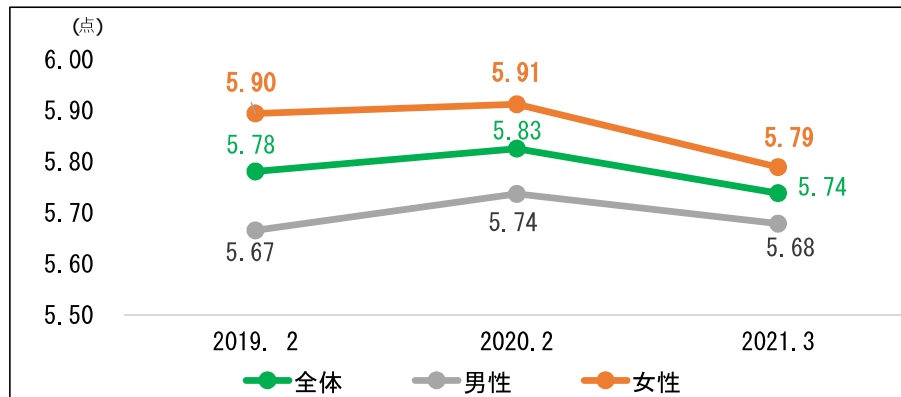
4. 生活面

【参考】満足度等の動向（男女別）

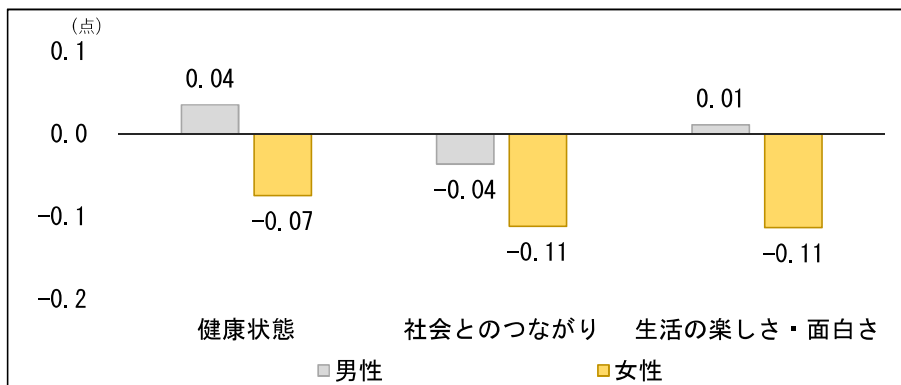
内閣府「満足度・生活の質に関する調査報告書2021～我が国のWell-beingの動向～（概要）」（2021年9月）より

- ✓ 2021年3月の生活満足度は低下。特に女性で低下した。（図表1-1）
- ✓ 「健康状態」「社会とのつながり」「生活の楽しさ・面白さ」の満足度は、女性の低下幅が大きい。（図表1-2）
- ✓ コロナへの感染不安、友人等との交流の減少、気分の沈み等に困っている割合は、女性が高い。（図表1-3～1-5）

図表1-1 生活満足度の推移

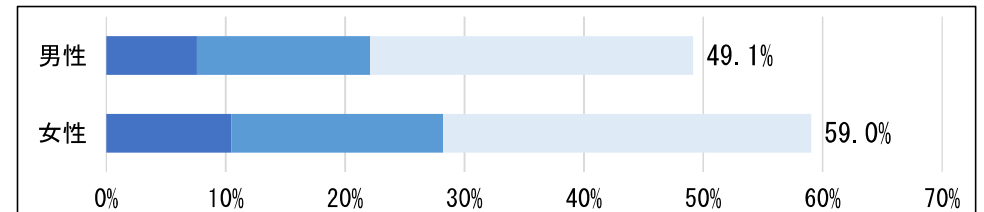


図表1-2 分野別満足度の変化幅

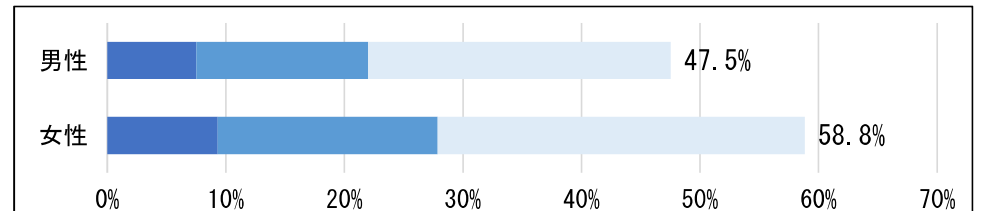


※2020年2月から2021年3月への変化幅

図表1-3 新型コロナに感染する不安やストレスが生じたことに困っているか（回答者割合）



図表1-4 友人・知人との交流が減ったことに困っているか（回答者割合）



図表1-5 気分が沈み、気が晴れないことが多くなり、困っているか（回答者割合）

